第28図　Ⅰ期官衙北部4

考えられる。またその南に隣接して直径25cmのピット(No.3ピット)が検出され、全体が熱で還元している。

3号炉は長軸50cm、短軸40cmの不整円形で、深さは10cmで壁面は還元し、さらにその周辺は酸化している。炉の内部より、土師器片、鉄製品、鉄滓が出土している。フイゴの通風施設と考えられる小溝状の落込みが北に続いており、そこから鉄滓の付着したP-19羽口が出土した。またその西に隣接して長軸45cm、短軸23cmの楕円形のピット(No.5ピット)が検出され、鉄滓や鉄製品の残欠が出土している。この炉の北2mのところから鉄滓が集中して出土している。

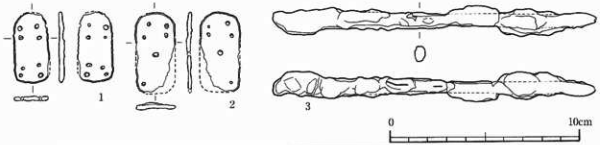
4号炉は撹乱により形状等は不明であるが、還元および酸化した面が確認されている。炉の西に直径32cmのピット(No.2ピット)が検出され、周辺が熱で酸化している。深さは17cmで壁面は還元し、さらにその周辺は酸化している。

6号炉はSD273溝跡に切られ、直径36cmの半円状に残存している。

遺物は堆積土中から内面に鉄滓の付着した土師器C-663甕や土師器片、鉄製品の残欠、多量の鉄滓が出土している。床面からは鉄滓の付着したP-20羽口の先端部片、円孔があけられた鉄製品N-44小札、N-49鉄鏃などと椀形滓を含む多量の鉄滓が出土した。またN-44小札と同様の形態の鉄製品N-45小札が遺構の検出面上から出土している。炉跡からも土器片や鉄滓、鉄製品の残欠が出土している。

鉄製品N-44小札(第29図1)は全長3.8cm、最大幅1.9cm、厚さ0.2cmの長方形で、上下の端部に直径1～2mmの孔が2対ずつ穿たれている。N-45小札(第29図2)は全長4.3cm、最大幅2.1cm、厚さ0.15～0.2cmの長方形で、端部が欠損している。直径1～2.5mmの孔が5個確認できるが、N-44とは孔の位置が異なっている。N-49鉄鏃(第29図3)は全長17.1cm以上、最大幅は1.35cm、厚さ0.55cmであるが、錆化が著しく詳細な形態は不明である。

SD273・1291溝跡に切られている。



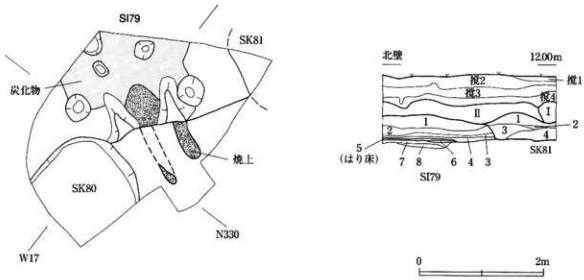
図版番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	法量 (cm)	調査次数	写真図版
1	N-44	鉄製品	小札	SI1294		全長3.8、最大幅1.8、厚さ0.3、孔径0.2	86	739
2	N-45	鉄製品	小札	SI1294	検出面	全長4.3、最大幅2.2、厚さ0.15～0.2	86	739
3	N-49	鉄製品	鉄鏃	SI1294	床面	全長17.1～、最大幅1.35、厚さ0.55、鏃身部長2.6～、茎部長14.5～	86	

第29図　SI1294　出土遺物

SI79竪穴住居跡（第19次・第30、31図）

小規模な調査で竪穴住居跡のカマドと床面の一部を検出した。壁の方向はN—25°—Eで、残存する高さは10～15cmである。貼床が残存し、5個のピットが掘り込まれている。東南壁中にカマドがあり、黄褐色粘土によりソデが構築されている。カマドの内部には凝灰岩の切石による支脚が2箇所に設置され、そこに接する壁中からは幅15cm、長さ100cm程の煙道が延びている。隣接して長さ60cm程の煙道が検出されたことから、カマドの造り替えがなされていると考えられる。

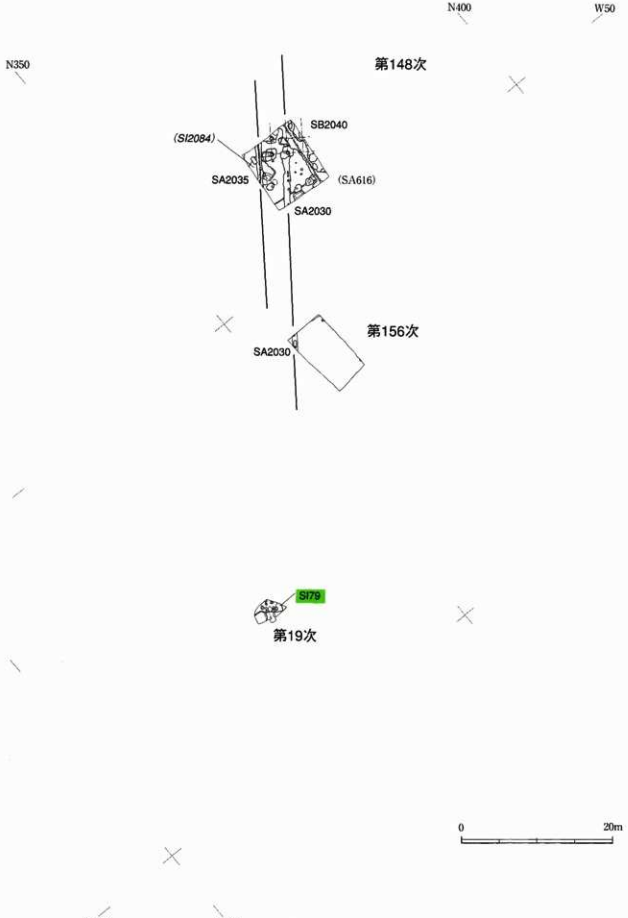
遺物はカマドや旧煙道、床面などから出土している。カマド周辺からは、外面体部から底部にかけてヘラケズリで内面はヘラナデのちヘラミガキが一部に施された半球形の土師器C−148坏(第32図2)、宝珠形のツマミを有し内面にカエリのある須恵器E−80蓋(第32図4)、凸面格子叩きで凹面に模骨痕跡の観察されるG−10平瓦(第32図11)片が2点出土している。床面上からは口縁部がやや内面に傾斜する半球形の土師器C−162坏(第32図1)、口縁部の外面がやや屈曲し、総じて直立気味となる半球形の土師器C−163坏(第32図3)、肩部に刺突が巡る須恵器E−76平瓶(第32図8)、口縁部に2条の沈線状の凹凸がある土師器C−118甕（第32図9）などが出土している。また旧煙道からは体部外面に段を有し内面はヘラミガキが施された痕跡を残す土師器C−141坏(第32図5)、口縁部の下部に凹



第19次調査区北壁

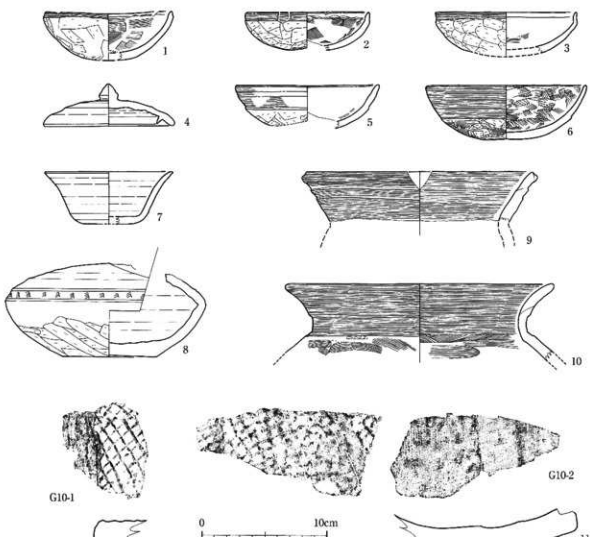
遺構名	層位	土色	土性	備考
SK81	撹1	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	
	撹2	10YR3/2 黒褐色	シルト	レンガ
	撹3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	若干の遺物と炭化物を含む
	撹4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	若干の遺物と炭化物を含む
	Ⅰ	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	粘性有
	Ⅱ	10YR4/4 褐色	砂質シルト	しまり大
	1	5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	遺物、炭化物を多量に含み、粘性大
	2	5YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物が多い
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	遺物、炭化物を含む
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	遺物、炭化物を含み、3より明るい
SI79	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	遺物、炭化物を含み、粘性大
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	遺物、炭化物を含み、1より暗い
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	遺物、炭化物を含む
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	遺物、炭化物を多量に含む
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	はり床
	6	5YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	多量の炭化物、遺物を含む
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	
	8	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	遺物、炭化物を含み、粘性大

第30図　SI79　平・断面図



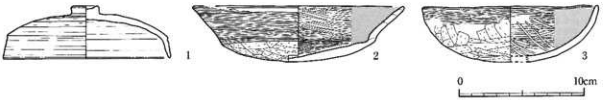
第31図　I期官衙北部1

む部分が観察される土師器C-123甕(第32図10)が出土している。その他堆積土中から体部外面に段を有し内面はヘラミガキが施された土師器C-160坏(第32図6)、再調整を受け底部の切り離し技法が明らかでない須恵器E-78坏(第32図7)が出土している。土師器C-141・160坏は、火熱を受けたと見られ、内面の黒色処理が不明瞭になっている。とくに土師器C-141坏が著しい。



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	法量 (cm)	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-162	土師器	坏	SI79	床面	残存高3.9 口径10.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラナデ		19	666
2	C-165	土師器	坏	SI79	カマド	残存高3.1 口径10.0	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラナデ・ミガキ	B II	19	666
3	C-163	土師器	坏	SI79	床面	残存高3.6 口径11.2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部不明、体部ヘラナデ→部ヨコナデ	B II	19	666
4	E-80	須恵器	蓋	SI79	カマド	器高2.4 口径10.4	天井部回転ヘラケズリ	ロクロナデ、カエリなり	I 1a	19	666
5	C-141	土師器	坏	SI79	1層目	残存高3.5 口径11.4	口縁部・体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヨコナデのちヘラミガキ (摩滅)	火熱痕跡、B3	19	666
6	C-160	土師器	坏	SI79		器高4.4 口径13.0	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリのち、部ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理	火熱痕跡、A II	19	666
7	E-78	須恵器	坏	SI79	4	器高4.2 口径10.4 底径4.0	口縁部・体部ヨコナデ、底部回転ヘラケズリ	ロクロナデ	B 3	19	666
8	E-76	須恵器	平瓶	SI79	床面	胴部最大径16.1 残存高7.5 底径7.6	胴部に文様帯あり、体部下半にヘラケズリ	ロクロナデ	内面に漆状膜	19	666
9	C-148	土師器	甕	SI79	床直	残存高3.9 口径19.2	端部ヨコナデ	端部ヨコナデ	A II	19	666
10	C-123	土師器	甕	SI79	1層目	残存高6.2 口径21.6	端部ヨコナデ、体部ヘラケズリのちナデ	端部ヨコナデ、体部ナデ	B 1	19	666
11	G-312	瓦	平瓦	SI79	カマド		凸面格子目叩き、凹面布目痕		2破片あり	19	666

第32図　SI79　出土遺物



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	E-291	須恵器	蓋	SI1018	床面	器高4.2、口径13.4	つまみ部ヨコナデ、天井部回転ヘラケズリ、底部ナデ	ロクロナデ		II 2	68	729
2	C-630	土師器	坏	SI1018	北壁	器高4.5、口径16.8、底径12.3	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ		A 1	68	729
3	C-633	土師器	坏	SI1019		残存高4.5、口径14.2	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラミガキ	黒色処理	A IV 1a	68	729

第33図　SI1018・1019　出土遺物

SI1018竪穴住居跡（第68次・第34、35図）

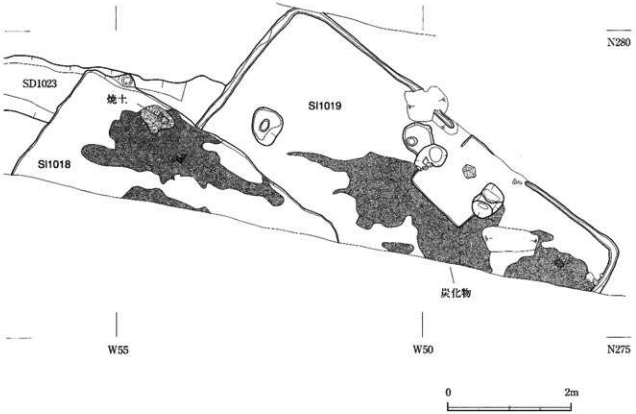
東西4.9m以上、南北6.9m以上の方形と推定され、方向はN—30°—Eである。削平が著しく床面まで及んでおり、貼床が一部しか残存していない。カマドは北壁中に付けられていた。

遺物は北壁際より口縁部が外反する土師器C-630坏（第33図２）が、床面焼土上より有蓋高坏に伴うと考えられる須恵器E-291蓋（第33図１）が出土している。

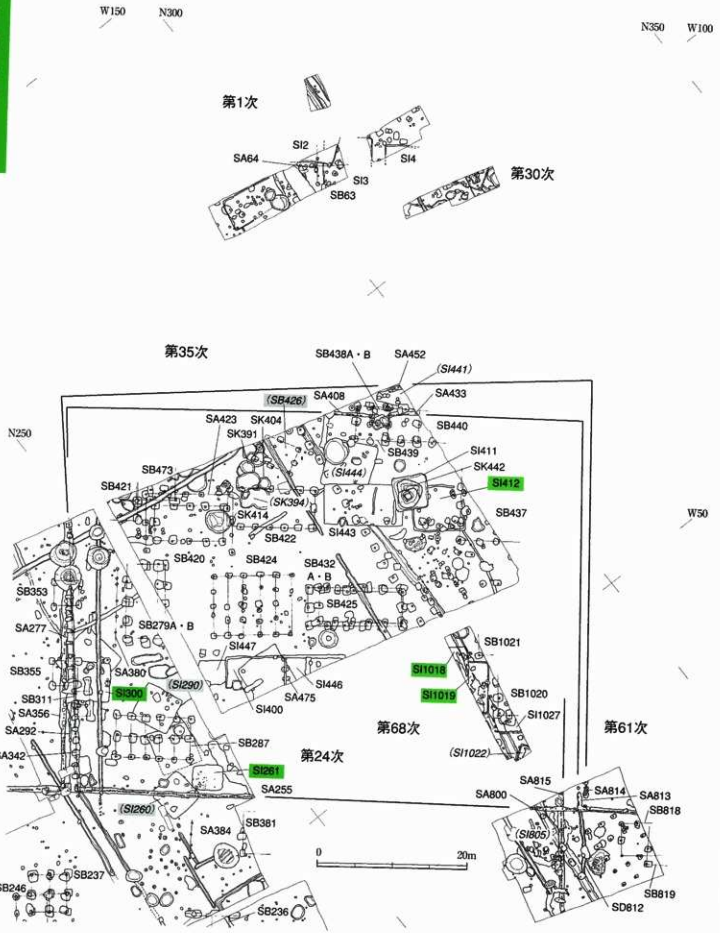
SI1019竪穴住居跡、SD1023溝跡を切っている。

SI1019竪穴住居跡（第68次・第34、35図）

東西6.9m以上、南北4.3m以上の方形と推定され、北壁での方向はE—31°—Sである。削平が著しく撹乱が床面まで及んでおり、貼床が一部しか残存していない。カマドは北壁中に付けられていた。焚口から燃焼部にかけて奥行130cm、幅110cmでほぼ方形に深さ10cm程掘り下げられている。カマドの両袖付近には不整形のピットが掘られている。壁際には幅10cm、深さ５～10cmの周溝が巡っている。



第34図　SI1018・1019　平面図



第35図　Ⅰ期官衙北部2

堆積土中より外面に段や稜を持たず、内面ヘラミガキ黒色処理された土師器C-633坏(第33図3)や、E-285甲面硯の小片、床面上からフラスコ型とみられる須恵器E-286瓶や土師器の甕が1個体分出土している。

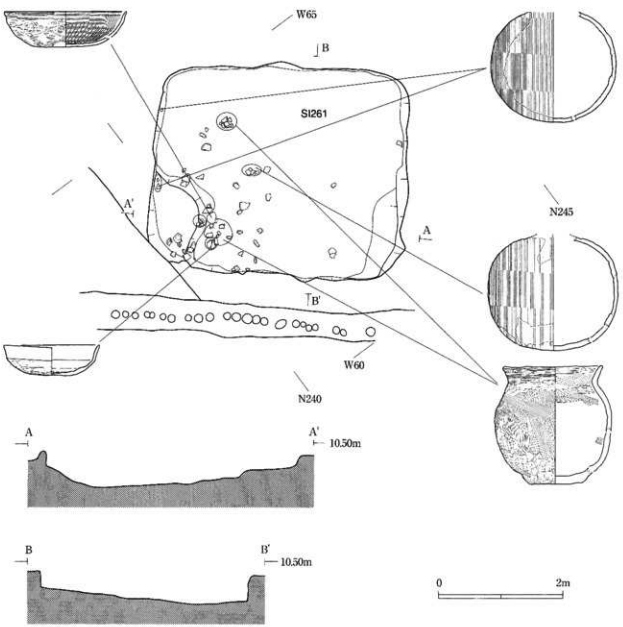
SD1023溝跡を切り、SI1018竪穴住居跡に切られている。

SI261竪穴遺構(第24次・第35、36図)

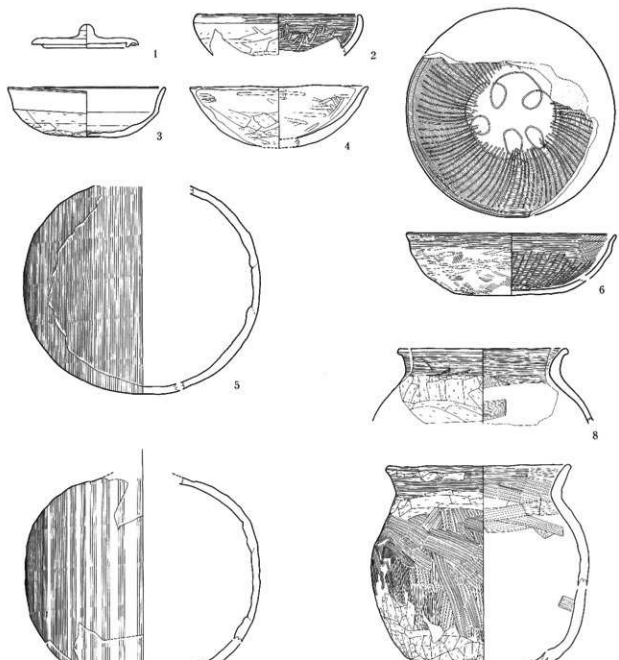
東西3.3m、南北4mの隅丸方形で、深さ30～45cmである。底面に凹凸があり、東壁際が最も深くなっている。方向はN—34°—Eである。

堆積土は4層で、第1、2層は暗褐色シルト、第3層は黒褐色シルト、第4層は灰褐色の灰の層である。第1～3層中には、北側から投棄されたように直径10～15cmの円礫(河原石)が多量に入り込み、第2層上面では焼土も同じように入り込んでいる。

遺物は河原石や焼土と伴に多量の土器片が出土した。堆積土中より徴内地方の土師器の特徴を有するC-186坏(第37図6)、半球形で内面がヨコナデの施される土師器C-190坏(第37図2)、外面に段や稜がなく風化の著



第36図 SI261 平・断面図



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	E-119	須恵器	蓋	SI261	上層	器高1.9　口径6.6	ロクロナデ	ロクロナデ，カエリ有り	T 1bi	24	679
2	C-190	土師器	坏	SI261	4	残存高3.2　口径（13.2）	口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ	ヨコナデのちヘラミガキ	BV2	24	
3	E-113	須恵器	坏	SI261	床面	器高4.2　口径13.3	口縁部ロクロナデ，体底部転ヘラケズリ，底部ヘラケズリ，回転ヘラ切り	ロクロナデ	I 1b	24	679
4	C-224	土師器	坏	SI261	上層	残存高4.9　口径（14.6）	口縁部ヘラミガキ，体部ヘラケズリ	ヘラミガキ	AW2b	24	679
5	E-115	須恵器	甕	SI261	床面	残存高16.6　最大径19	カキメ，タタキメ	同心円文，オサエメ		24	
6	C-186	土師器	坏	SI261	3	器高4.95　口径16.8　底部8.3	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ，体部ヘラナデ→ヘラケズリ→ヘラミガキ　底部ヘラナデ→指ナデ	口縁部ヨコナデ，体部ヨコナデ→放射状暗文　底部ヘラナデ→放射状暗文→ラセン暗文	C I 1	24	679
7	E-114	須恵器	甕	SI261	床面	残存高16.4　最大径18.9	カキメ，タタキメ	同心円文，オサエメ		24	
8	C-241	土師器	甕	SI261	4	残存高6.0　口径（13.4）	口縁部ヘラケズリ→ヨコナデ，体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ，体部ヘラケズリ→ヘラナデ	H II	24	
9	C-187	土師器	甕	SI261	床面	器高17.4　口径14.5　底径7.7	口縁部ヨコナデ→ヘラナデ？，胴部ヘナメ，底部ヘラケズリ	口縁部ヘケメ，体部ヘラナデ	B I	24	679

第37図　SI261　出土遺物

しい土師器C−224坏(第37図４)、体部上半のハケメ調整の顕著な土師器C−187甕(第37図９)、体部にヘラケズリが施されススが付着した土師器C−241甕(第37図８)、扁平でカエリがあり擬宝珠様のツマミが付く須恵器E−119蓋(第37図１)、同心円状のカキ目が顕著な須恵器E−115、114瓶(第37図５、７)が出土している。また底面より体部中に稜線を有し、それより下に回転ヘラケズリが施される須恵器E−113蓋(第37図３)、体部が球形の土師器C−235甕などが出土している。この他に土師器坏、甕、須恵器坏の小片が出土している。

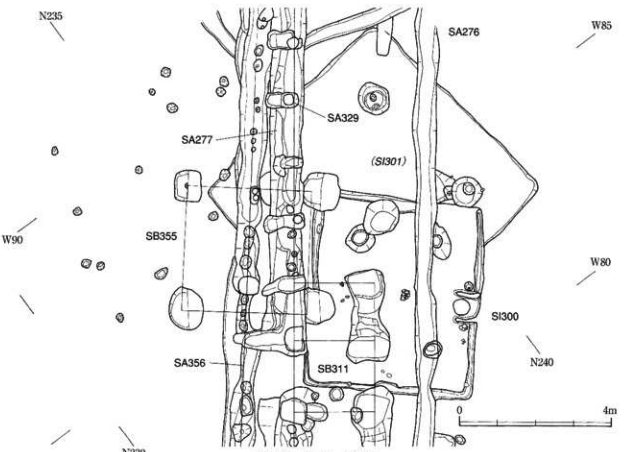
このうち土師器C−186坏(第37図６)は、内面にハケ状の工具によるヨコナデが施され口縁部に向かって斜め上方に抜けている。底部から体部上方に向かい放射状の暗文が右回りに入れられている。その後に底面に螺旋状の暗文が５回転ほど左回りに施文されている。３箇所で途切れているが螺旋の形状からは連続して入れられたものと考えられる。欠損による断面を観察すると、胎土が薄い膜状に剥離するよう割れている。

SI300竪穴住居跡（第24次・第35、38図）

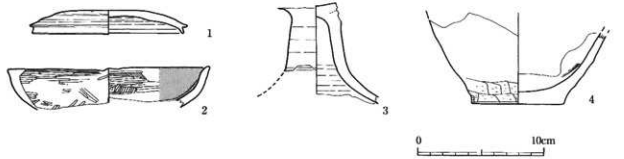
東西5.1～5.2m、南北4.5mの方形、深さ５～10cmで、壁の立ち上がりは僅かである。幅15～25cm、深さ５～15cmの周溝が四周する。カマド中央での方向はN―33°―Eである。カマドは北壁鋪ほぼ中央にあり、幅90cm、奥行70cmの範囲でカマドの両袖と燃焼部底面が残っていた。主柱穴は４箇所にあると見られるが、東南隅がSB311に切られ不明である。主柱穴間の柱間寸法は東西2.8m、南北2.1mで、掘り方は長軸70cm程、深さも70cm程で、その中に直径35～40cmの柱痕跡がある。

遺物は床面上から底部が木葉底の土師器C−211甕(第39図４)、周縁部が短くカエリがY字形に開くE−128蓋(第39図１)、細い脚部のE−129高坏(第39図３)が出土し、さらに掘り方から体部に丸みがあり内面黒色処理された土師器C−263坏(第39図２)が出土している。この他に土製紡錘車の破片などが出土している。

SI301竪穴住居跡を切り、SB311・355建物跡、SA276・277材木列、SA329一本柱列に切られている。



第38図　SI300　平面図



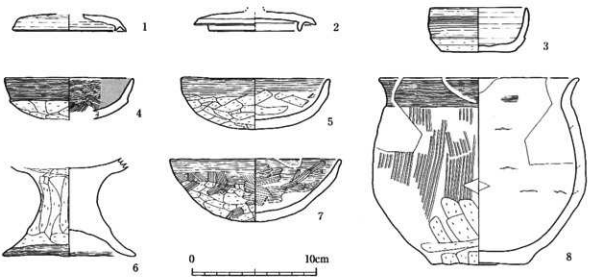
図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	E-128	須恵器	蓋	SI300	床面	器高1.9、口径12.5	天井部ロクロナデ→回転ヘラケズリ	ロクロナデ、カエリ有り	歪みあり、I1	24	672
2	C-263	土師器	坏	SI300	掘り方	残存高3.2、口径16.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ、体部ナデ→ヘラミガキ、黒色処理	ANE2a	24	
3	E-129	須恵器	高坏	SI300	床面	残存高7.7	ロクロナデ	ロクロナデ	I	24	
4	C-211	土師器	甕	SI300	床面	残存高6.6、底径7.2	体部ヘラケズリ、底部未調整	ヘラナデ		24	

第39図　SI300　出土遺物

SI412竪穴住居跡（第35次・第35図）

東西6.3m、南北７mのほぼ方形で、方向はN―33°―Eである。遺構の西側で削平が著しく、周溝のみ残存する箇所もあるが、東壁沿いでは貼床が認められる。なお東壁中央に焼け面があり、カマドの痕跡の可能性がある。周溝は幅15～28cm、深さ２～14cmである。柱穴は７つ検出され、重複している状況からは、ほぼ同位置での建て替えが想定される。

遺物は検出面上から内外面の口縁部がヨコナデでのちヘラケズリが施される土師器C-285坏(第40図５)、内外面の口縁部周辺がヨコナデでのちヘラミガキが施される土師器C-286坏(第40図７)、坏部内面が黒色処理されていない土師器C-287高坏(第40図６)、体部外面にハケメ調整が施される土師器C-288甕(第40図８)などが出土している。



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	E-217	須恵器	蓋	SI412	P1	残存高1.25　口径（9.2）	天井部ロクロナデ、天井部回転ヘラケズリ	ロクロナデ、カエリ有り	I1	35	681
2	E-219	須恵器	蓋	SI412	カマド	残存高1.5　口径（10.2）	ロクロナデ	ロクロナデ、カエリ有り	I1	35	681
3	E-179	須恵器	坏	SI412	周溝	器高3.6、口径7.8、底径6.0	口縁部ロクロナデ、体部回転ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	ロクロナデ	I2	35	681
4	C-460	土師器	坏	SI412	カマド	残存高3.4、口径10.2	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ	AII2	35	681
5	C-285	土師器	坏	SI412	検出面	器高4.1、口径12.0	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	BII2	35	681
6	C-287	土師器	高坏	SI412	検出面	残存高7.2、脚裾径10.8	脚部ヨコナデ→ヘラケズリ、脚裾部ナデ→ヨコナデ	坏底部ミガキ、脚裾部ヨコナデ	II	35	
7	C-286	土師器	坏	SI412	検出面	器高5.6、口径13.8	口縁部ヨコナデ→ヘラナデ→ヨコナデ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、底ヘラミガキ、体部ヘラミガキ	BIII2	35	681
8	C-288	土師器	甕	SI412	検出面	器高15.0、口径16.7、底径7.4	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ヘラケズリ	BII	35	681

第40図　SI412　出土遺物

カマド痕跡と見られる焼土上からは、カエリがあり端部が直線的に折り曲げられた小型の須恵器E-219蓋(第40図2)、外面の体部中に段を有し、内面黒色処理された小型の土師器C-460坏(第40図4)が出土している。さらに周溝内からは底部ヘラ切りのち回転ヘラケズリの施された小型の須恵器E-179坏(第40図3)が、床面上のピット1からはカエリのある小型の須恵器E-217蓋(第40図1)が出土している。

SB437建物跡、SD436溝跡を切り、SI411竪穴遺構、SK442土坑、SE429井戸跡に切られている。

SI377竪穴住居跡(第24次・第43図)

南北7.2m、東西7.5mのほぼ正方形で、上部遺構との重複や撹乱により床面等は削平されている。方向は西壁でN—30°—Eである。

遺物は掘り方中より底部が回転ヘラケズリされた須恵器E-172坏が出土している。なお蓋として使用された可能性もある。

図版番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	法量(cm)	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
	E-172	須恵器	坏	SI377	掘り方	器高2.9、口径(6.4)	ロクロナデ	ロクロナデ		24	672

第41図 SI377 出土遺物

SD363・367・368溝跡、SI376竪穴建物跡、SK372土坑に切られている。

SB344建物跡(第24次・第43図)

東西3間、総長8.6m(柱間寸法270cm)、南北2間以上、総長5.4m以上(柱間寸法270cm)の総柱建物跡で、南側柱列の方向はE—33°—Sである。柱穴は一辺150～220cmの方形で、深さは130cmである。柱痕跡は直径70～80cmで、底面あるいは柱痕跡下部周縁に5～15cmの円礫を多量に入れている。全ての柱穴に柱抜き取り穴が見られる。I期官衙総柱建物跡で柱痕跡、掘り方とも最大の規模である。

SI366竪穴住居跡を切っている。

SB14建物跡(第2、77次・第43図)

桁行8間、総長17m(柱間寸法200～260cm、平均230cm)、梁行4間、総長7.4m(柱間寸法平均181cm)の建物跡で、梁行の方向はN—32°—Eである。柱穴は一辺122～126cmの隅丸方形である。柱痕跡は直径30～40cmである。

SB13・17・1070建物跡を切っている。

SB1100建物跡(第77次・第43図)

桁行8間、総長17m(柱間寸法210～220cm、平均213cm)、梁行4間、総長7.4m(柱間寸法平均180～190cm、平均186cm)の建物跡で、桁行の方向はE—32°—Sである。柱穴は一辺124～176cmの隅丸方形及び円形である。柱痕跡は直径28～38cmで、深さが確認された箇所では64cmある。抜き取り穴が梁行の柱穴で、1箇所にのみ入っている。

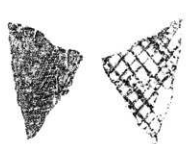
SB14建物跡と同規模で軒方向を揃えていることから、同時期に建ち並んでいることが考えられる。

SA1067一本柱列、SD1087溝跡に切られている。

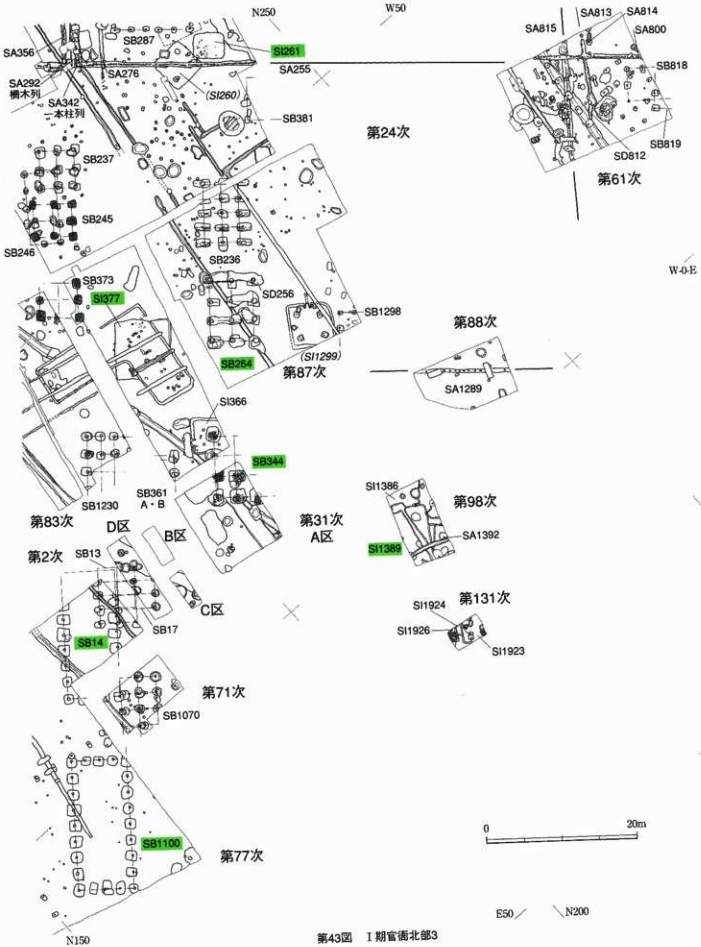
SB264建物跡(第24、87次・第43図)

桁行3間、総長7.95m(柱間寸法245、275cm)、梁行2間、総長5.8m(柱間寸法190cm)の総柱建物跡で、梁行の方向はN—33°—Eである。柱穴は一辺70～160cmの方形あるいは不整方形で、底面に直径5～15cmの円礫が敷かれているものがある。柱痕跡は直径47～67cm、深さ105～120cmで、桁行の1箇所を除き柱抜き取り穴が見られる。

遺物は抜き取り穴から格子叩きのG-62平瓦片(第42図)が出土し、その



第42図 SB264 出土遺物



第43図　Ⅰ期官衙北部3

他に土師器、鉄製品の破片も出土している。

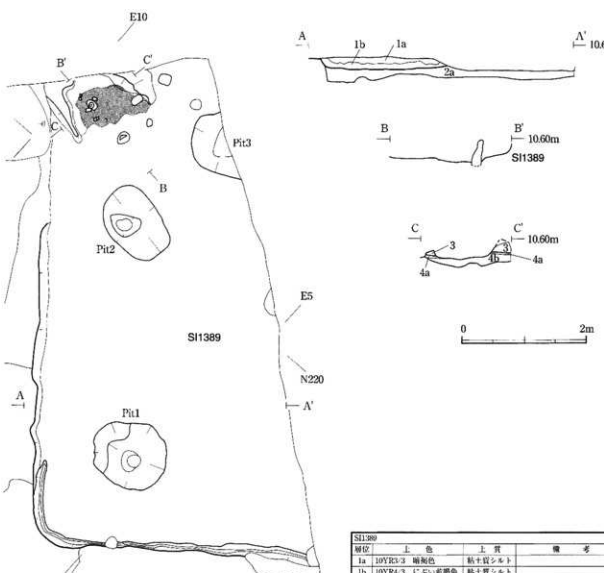
SI366竪穴住居跡を切っている。

SI1389竪穴住居跡（第98次・第43、44図）

東西7.5m以上、南北4.4m以上の長方形と推定される竪穴住居跡である。北壁の方向はE—25°—Sである。最も良好に残存する床面までの深さは15cmである。北壁の東端にカマドがあり、燃焼部底面には石製の支脚が埋設されていた。カマド内には焼土と炭化物が集積している。柱穴はP1～3まで検出された。P1からのみ直径20cmの柱痕跡が検出されている。

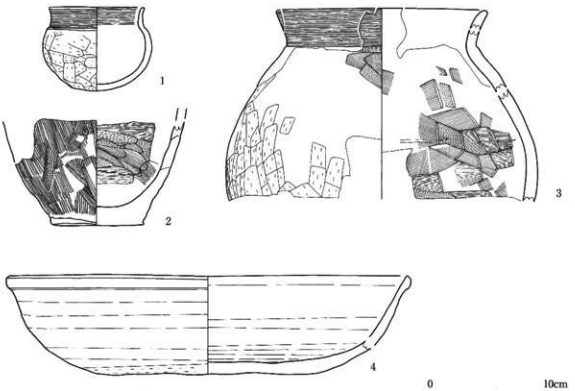
遺物は床面上から外面にヘラケズリ痕跡が明瞭な小型の土師器C-724小型壺（第45図1）、同じくヘラケズリ痕跡が明瞭な土師器C-721甕（第45図3）、外面にハケメ調整が明瞭で下脹れの土師器C-720甕（第45図6）、大型で深みのある須恵器E-364皿（第45図4）、カマド内からは外面ハケメ調整の土師器C-723甕片（第45図2）、石製のK-27支脚（第45図5）などが出土している。

SI1386・1391竪穴住居跡を切っている。



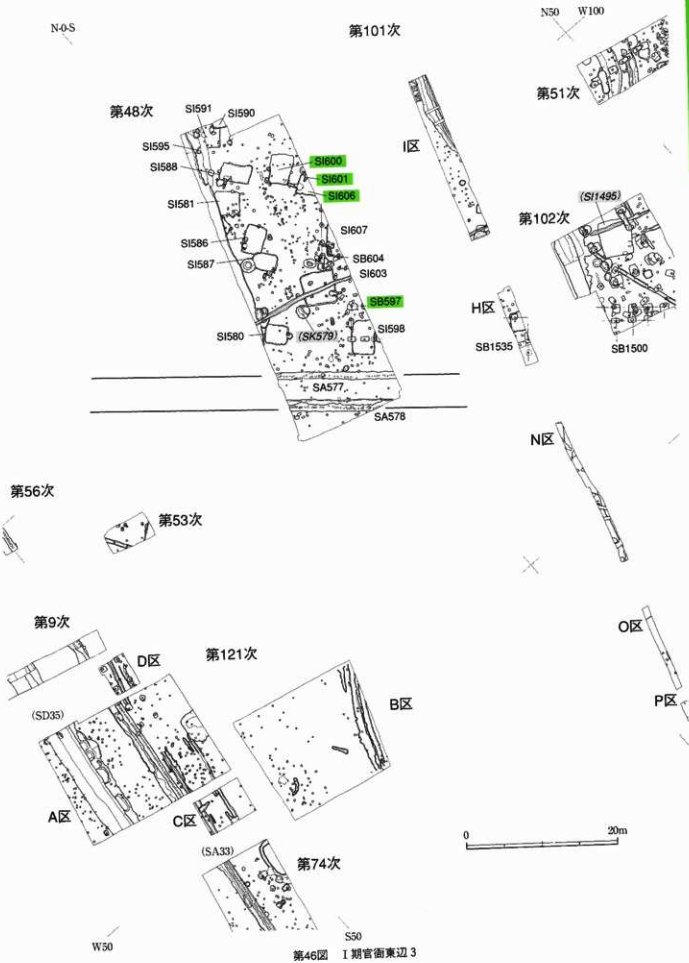
SI1389			
層位	土色	土質	備考
1a	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	
2a	10YR5/1 赤褐色	粘土質シルト	炭化物焼土多量
3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	
4a	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土	黒色粘土を多量に含む
4b	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土	

第44図　SI1389　平・断面図



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-724	上師器	小型台	SI1389	床面	器高6.75、口径7.6	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	11	98	745
2	C-723	土師器	甕	SI1389	ﾍﾟｯﾄ	残存高8.5、現径7.5	体部ハケメ、底部木葉痕	体部指ナデ	A I	98	
3	C-721	土師器	甕	SI1389	床面	残存高15.5、口径17.0	口縁部ヘラナデ、体部ヘラケズリ	体部ヘラナデ	B II 2	98	
4	K-364	鞴羽口	羽	SI1389	床面	現高8.9、口径32.0	口縁部・体部ロクロナデ、底部ケズリ	口縁部・体部ロクロナデ	E	98	745
5	K-27	石製品	支脚	SI1389	ﾍﾟｯﾄ	器高45.4、最大幅13.2			上半に敲打痕	98	745
6	C-720	上師器	甕	SI1389	床面	残存高20.6	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	体部ヘラナデ→指ナデ	B I 2	98	745

第45図　SI1389　出土遺物



第46図　I期官衙東辺3

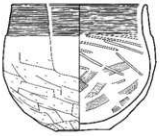
［Ⅰ期官衙東辺］

SB597建物跡（第48次・第46図）

東西２間、総長3.3m（柱間寸法180～255cm）、南北２間以上、総長3.6m以上（柱間寸法180cm）の建物跡で、東西柱列の方向はN―33°―Eである。柱穴は一辺60～140cmの長方形で、深さは45～70cm、柱痕跡は直径30～55cmである。

遺物は柱穴掘り方埋め土より、外面のヘラケズリが顕著で平底の土師器C-551小型甕（第47図・写真図版712）が出土している。

SI598竪穴住居跡を切っている。



第47図　SB597　出土遺物

SI600竪穴住居跡（第48次・第46、48図）

東西４m、南北2.7mの長方形で、南東辺の方向はN―40°―Eである。上部の削平が著しく、壁の立ち上がりは明瞭でない。壁上端より床面までは２～14cm程である。カマド、周溝、主柱穴などは検出されなかった。

遺物は床面より内面ナデ、外面ヘラミガキされた平底の土師器C-552坏（第49図３）が出土している。

SI601竪穴住居跡（第48次・第46、48図）

調査区の北西隅で住居跡の一部を検出した。煙道は長さ100cm、幅12～20cm、深さ９cmで、カマドのソデも残存している。煙道の方向はE―59°―Sである。ソデの周囲から土師器甕が３点出土している。

遺物は口縁部が「く」の字状に開き平底の土師器C-553甕（第49図５）、同じく「く」の字状に開くが丸底の土師器C-555甕（第49図６）が出土している。

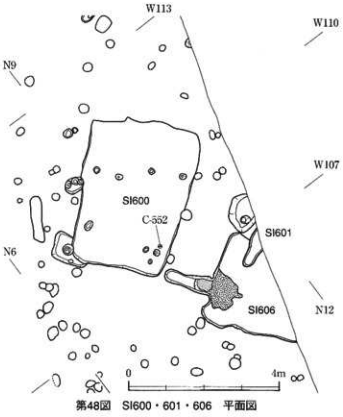
SI606竪穴住居跡を切っている。

SI606竪穴住居跡（第48次・第46、48図）

調査区の北西隅で住居跡の一部を検出した。東西2.6m、南北２m以上で、煙道の方向はN―47°―Eである。壁は外傾気味に立ち上がり、壁上端より床面までは15～20cmである。床面はにぶい黄褐色シルトによる貼床で、部分的に２枚認められる。カマドは南西壁のコーナー付近にあり、前面の床上には炭化物が分布している。周溝、主柱穴などは検出されなかった。

遺物は床面より内面黒色処理された丸底の土師器C-556坏（第49図２）、関東地方の土師器の特徴を有する土師器C-562坏（第49図１）が出土している。

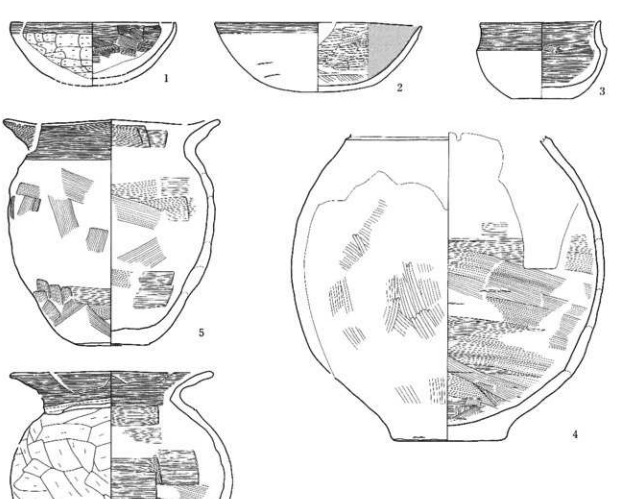
SI601竪穴住居跡に切られている。



第48図　SI600・601・606　平面図

SD1995溝跡（第138次・第50、51図）

上幅110～350cm、底面幅100cm程、深さ15cm程、断面形は逆台形の溝跡である。壁はやや直立気味に立ち上がり、底面は平坦である。方向はN―36°―Eで、検出した総長は57.5mである。南に隣接する第135次調査では、SD1957・1958溝跡の重複になっていた。第138次調査では断面形や堆積土に違いがあり、連続性を明らかには出来なかった。遺物は出土していない。



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-562	土師器	坏	SI606	床面	残存高4.5、口径（13.2）	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部・体部ナデ	B V	48	711
2	C-556	土師器	坏	SI606	床面	器高5.8、口径16.4	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁部・体部ヘラミガキ、黒色処理	A B Ia	48	711
3	C-552	土師器	坏	SI600	床面	器高6.2、口径9.6、底径4.9	口端部ヨコナデ、底部：指ヘラケズリ→ヘラミガキ	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヨコナデ→ヘラナデ	C Bc	48	711
4	C-554	土師器	甕	SI600	埋土	残存高24.6、底径9.0	体部ハケメ→ヘラミガキ、底部木葉痕	体部・底部ヘラナデ	B B	48	
5	C-553	土師器	甕	SI601	埋土	器高18.1、口径17.4、底径6.0	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	ヘラナデ	A I i	48	712
6	C-555	土師器	甕	SI601	埋土	器高18.1、口径17.4	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラナデ	B B I	48	712

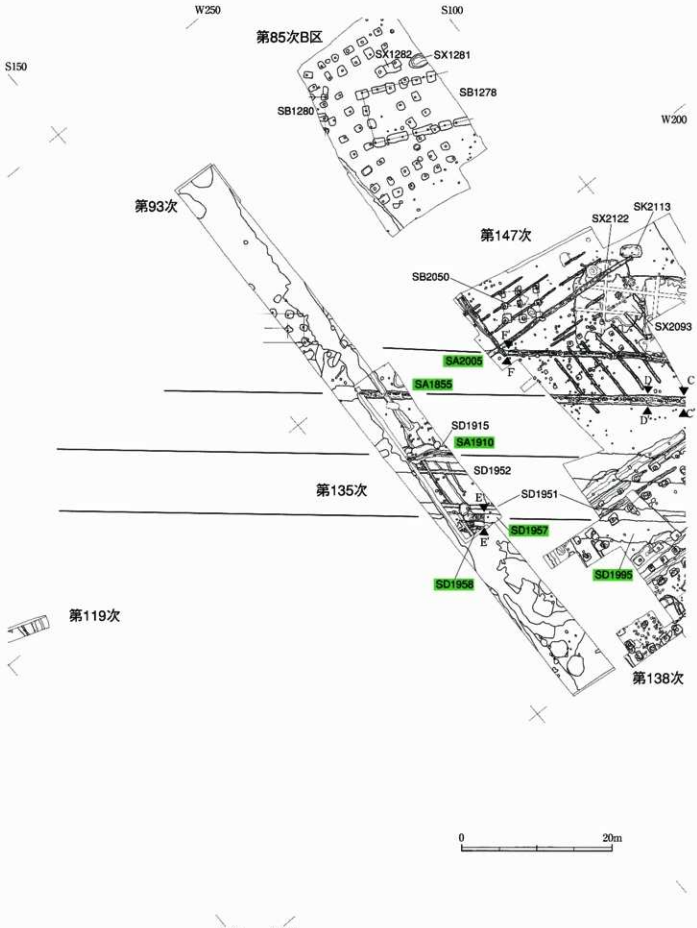
第49図　SI600・601・606　出土遺物

SD1951溝跡を切り、SB2010・2015建物跡、SD2000・2008・2009溝跡、SI2038竪穴遺構、SK2014・2017土坑に切られている。

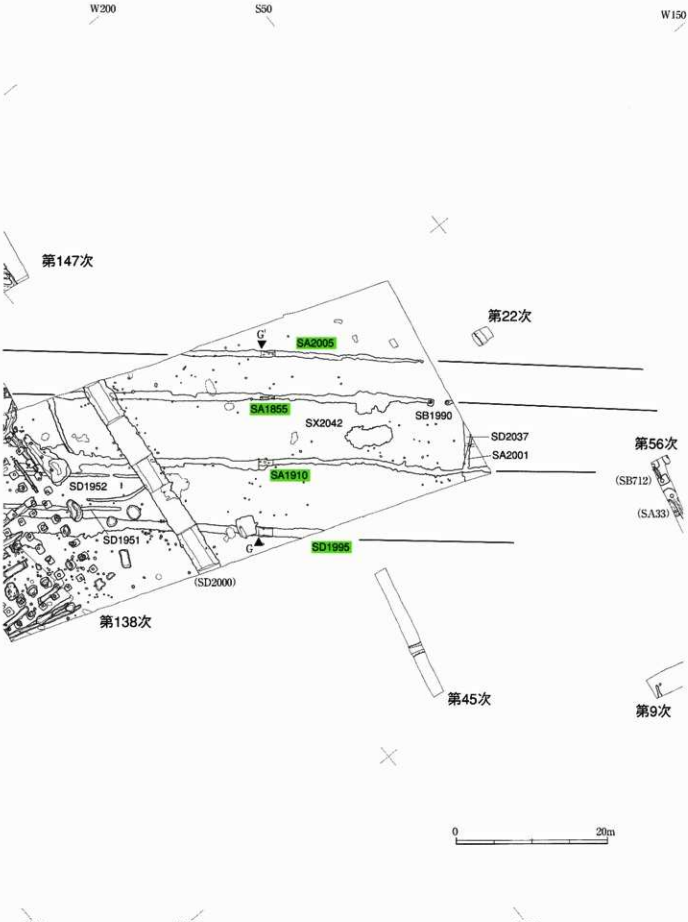
SD1957溝跡（第135次・第50図）

上幅100～110cm、底面幅90cm程、深さ20～30cm程、断面形は逆台形の溝跡である。壁は直立して立ち上がり、底面は凹凸が著しい。方向はN—34°—Eで、検出した総長は7.5mである。

SD1356溝跡、SK1948土坑に切られている。



第50図　Ⅰ期官衙東辺1



第51図　I期官衙東辺2

SD1958溝跡（第135次・第50図）

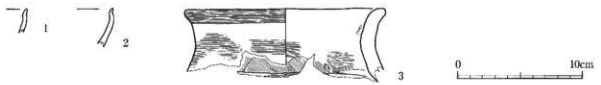
上幅50～70cm程、深さ10cm程の溝跡であり、調査区の東端で一部を検出したのみである。方向はN―35°―Eで、検出した総長は5.4mである。

SD1356溝跡に切られている。

SA1910材木列（第135、138次・第50、51図）

上幅50～435cmの抜き取り溝底面で、材木列掘り方の残存部と直径20～35cmの柱痕跡を検出した。方向は第135次調査区の北部でN―37°―E、第138次調査区の南部でN―33°―Eで、検出した総長は104mである。第138次調査区の北端部でSA2001材木列とT字に接続している。

遺物は抜き取り溝中より関東地方の土師器の特徴を有する土師器C-884・886坏片（第52図２、１）、ヨコナデが施された小型の土師器C-898甕（第52図３）が、また用途が不明であるが凸面に突帯の剥離痕跡があり、その中にヘラ状の刺突がありE-470不明品（写真図版775）が出土している。



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-886	土師器	坏	SA1910	第3I	残存高2.05	口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ	口縁部ナデ		135	
2	C-884	土師器	坏	SA1910	第3I	残存高3.2	口縁部ヨコナデ・ヘラケズリ	口縁部ナデ		135	767
3	C-898	土師器	甕	SA1910	第3I	残存高35、口径16.2	口縁部ヨコナデ	口縁部ヨコナデ→ヘラナデ	31	138	775

第52図　SA1910　出土遺物

SA1855材木列（第135、138、147次・第50、51図）

上幅110～140cmの抜き取り溝底面で、材木列掘り方の残存部と直径15～20cmの柱痕跡を検出した。抜き取られた際の深度は一定せず、材木列掘り方よりも深く掘られた箇所もある。柱痕跡の方向は第147次調査区でN―34°―Eで、検出した総長は99mである。第138次調査区の北端部でSB1990門跡と接続している。SB1990門跡は材木列の掘り方が拡がり、抜き取り穴が伴っている。その中で直径20cm程の柱痕跡が検出された。掘り方は途切れ、1

図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	写真図版
1	C-877	土師器	坏	SA1855	第3H	器高5、口径10.5	口縁部ヘラミガキ、体部～底部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ、体部ナデ	3H	766
2	C-863	土師器	坏	SA1855	第3H	残存高2.5、口径（11.8）	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	A2	766
3	C-878	土師器	坏	SA1855	第3H	残存高3.2、口径12	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ→ミガキ	ヨコナデ	3H	766
4	E-435	須恵器	坏	SA1855	第3H	器高5、口径11、底径7.4	口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→ケズリ、底部回転ヘラ切り→ロクロナデ	口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→ナデ	1a	766
5	E-441	須恵器	甕	SA1855	第3I	残存高7.7、口径21.4	口縁部ロクロナデ	口縁部ロクロナデ	2	766

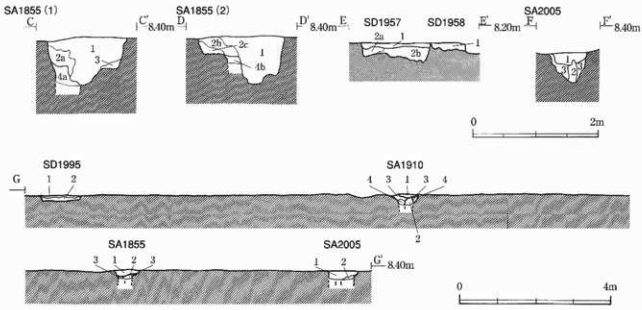
第53図　SA1855　出土遺物

間分空いた状況となっている。柱間寸法は推定で220cm程、通間と考えられる。

遺物は掘り方中より関東地方の土師器の特徴を有する土師器C−878坏(第53図３)、Ll頭部のみの須恵器E−441甕(第53図５)が、抜き取り溝中より内面黒色処理された土師器C−883坏(第53図２)、関東地方の土師器の特徴を有する土師器C−877坏(第53図１)、底部に回転ヘラ切りの痕跡を残す須恵器E−435坏(第53図４)が出土している。

SA2005a・b材木列（第138、147次・第50、51図）

[b] 上幅60～90cmの抜き取り溝底面で、材木列掘り方と直径10～15cmの柱痕跡を検出した。抜き取られた際の深度は一定せず、柱痕跡底面よりも深く掘られた箇所もある。柱痕跡の方向は第147次調査区の南部でN−34°−Eであるが、調査区の北端部では東に屈曲しN−40°−Eとなる。検出した総長は24mである。



遺構名	層位	土色	土性		備考
C-C'・D-D'					
SA1855	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	抜き取り	白色粘土をブロック状に含む
	2a	10YR2/2 にぶい黄橙色	粘土		酸化鉄をブロック状に含む
	2b	10YR8/1 灰白色	粘土		
	2c	10YR7/3 にぶい黄橙色	粘土		黒褐色粘土、酸化鉄を多量に含む
	3	10YR7/2 にぶい黄橙色	粘土		黒褐色粘土を少量含む
	4a	10YR7/1 灰白色	粘土質シルト	掘り方	黒褐色粘土をブロック状に含む
	4b	10YR7/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト		酸化鉄、白色粘土を多量に含む
E-E'					
SD1957	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト		白色粘土をブロック状で含む
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土		
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土		白色粘土をブロック状で含む
SD1958	1	10YR4/6 褐色	粘土質シルト		黒色粘土を混合する
F-F'					
SA2005	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	抜き取り	浅黄橙色粘土を少量含む
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土	柱痕跡	
	3	10YR5/2 灰黄褐色	粘土	掘り方	黒褐色粘土・褐灰色砂をブロック状に含む
G-G'					
SD1995	1	10YR4/1 褐灰色	シルト質粘土		
	2	10YR7/4 にぶい黄褐色	粘土		
SA1910	1	10YR4/1 褐灰色	粘土	抜き取り	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	柱痕跡	
	3	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土	掘り方	
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	粘土		
SA1855	1	10YR3/2 黒褐色	粘土	抜き取り	黄橙色粘土をブロック状に含む
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土	柱痕跡	黄橙色粘土をブロック状に含む
	3	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土	掘り方	黒褐色粘土をブロック状に含む
SA2005	1	10YR7/4 にぶい黄橙色	粘土	抜き取り	黒褐色粘土を帯状に含む
	2	10YR6/6 明黄褐色	粘土	掘り方	

第54図　Ⅰ期官衙東辺遺構断面図

[a] 調査区の北端部でbに先行する材木列と直径15cmの柱痕跡を検出した。柱痕跡の方向はN—34°—Eである。検出した総長は約6.4mである。

遺物はa・bいずれよりも、掘り方中より土師器の小破片が出土し、抜き取り溝中よりは土師器、須恵器の小破片が少量出土している。

SA2055材木列（第152次・第55図）

上幅150～155cmの抜き取り溝底面で、材木列掘り方の残存部と直径23～28cmの柱痕跡を検出した。材木列の掘り方の上幅は120cmで、深さは32～42cmである。方向はN—38°—Eで、検出した総長は18.5mである。

遺物は掘り方中より内面がヘラミガキ、黒色処理された土師器坏の小片が出土している。

SA2060材木列（第152次・第55図）

上幅55～90cmの掘り方とその中央に直径15～25cmの柱痕跡を検出した。方向はN—33°—Eで、検出した総長は23.5mである。掘り方の深さは50cmである。

遺物は掘り方中より内面がヘラミガキ、黒色処理された土師器坏の小片が出土している。

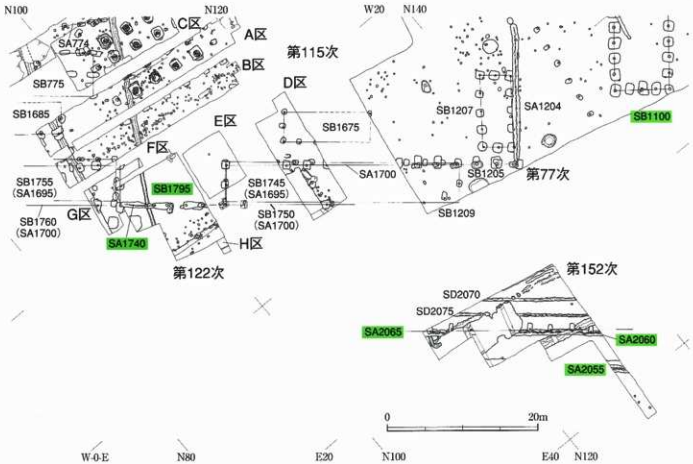
SA2060材木列、SD2119・2121・2126溝跡、SX2123性格不明遺構に切られている。

SA2065一本柱列（第152次・第55図）

掘り方が一辺42～73×82～120cmの長方形で、柱痕跡が直径17～29cmの柱穴による塀跡が検出された。方向はN—34°—Eで、柱間寸法は250～280cmである。柱穴は西側より段掘り状に掘られ、最深部で50cmの深さがある。

遺物は調査区南端の柱穴掘り方より土師器甕の小片が出土している。

SA2060材木列を切り、SD2119・2121・2126溝跡、SX2123性格不明遺構に切られている。



第55図　Ⅰ期官衙中枢部東辺

［Ⅰ期官衙南辺］

SA272材木列（第13、28、96次・第57、58、59図）

上幅40～120cm、深さは残存状況の良好な箇所で検出した面より55cmで、掘り方の中央に直径10～20cmの柱痕跡を検出した。方向は第13次調査区でE—28°—S、第96次調査区でE—27°—Sである。第28次調査区では、重複関係からSA272のみが検出されたものと考えられる。検出した総長は第13次調査区まで含め145mである。第13次調査区では、SA104材木列と呼称していた。

SA1380材木列、SD1367・1390溝跡を切り、SB1370・1395建物跡に切られている。

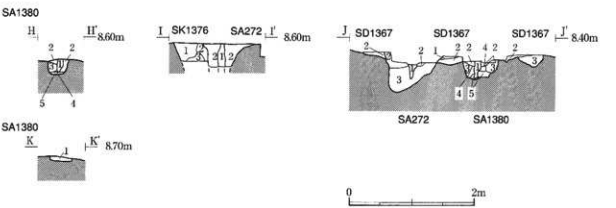
遺物は掘り方中より須恵器甕、土師器甕片が少量出土している。

SA1380材木列（第13、28、96次・第57、58、59図）

上幅20～70cm、深さは残存状況の良好な箇所で検出した面より35cmで、掘り方の中を多少蛇行するように直径5～12cmの柱痕跡を検出した。第96次調査区内でL字に曲がり北に延びている。方向は第13次調査区でE—28°—S、第96次調査区でE—29°—Sで、L字に曲がり北に延びた部分ではN—35°—Eである。L字に曲がるコーナー部分に直径11～22cm程の礫が2個埋まっていた。検出した総長は第13次調査区を含め、コーナーまで135mである。第13次調査区では、SA103材木列と呼称していた。

SD1367・1390溝跡を切り、SA272材木列、SB1370・1395建物跡に切られている。

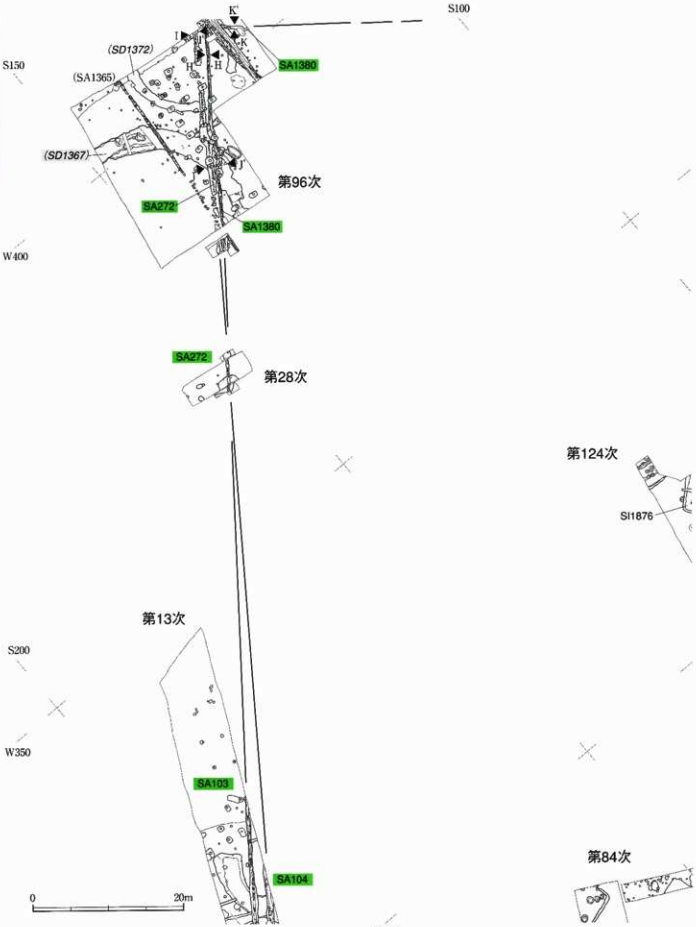
遺物は掘り方中より土師器坏、甕片が少量出土している。



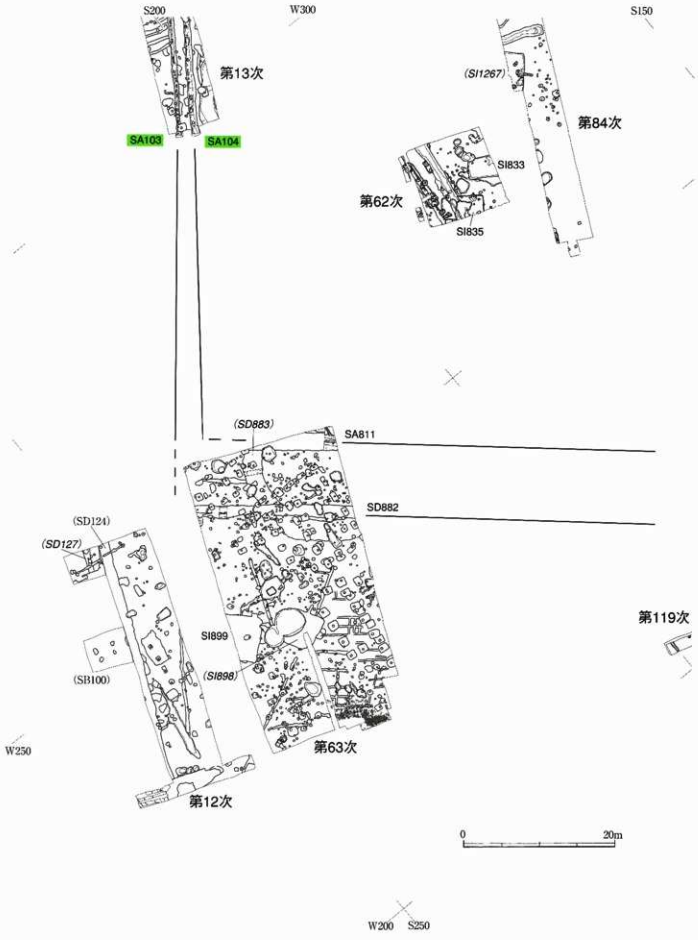
層位	土色	土性	備考
SA1380 H-H'			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	柱痕跡
2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	
3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
4	10YR4/6 褐色	シルト質粘土	
5	10YR5/6 黄褐色	シルト質粘土	
I-I'			
SA272			
1	10YR2/4 暗褐色	シルト	柱痕跡
2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	径5mm十、酸化鉄を含む
SK1376			
1	10YR3/4 暗褐色	粘土	
2	10YR3/3 暗褐色	粘土	黄褐色粘土を少量含む
3	10YR4/4 褐色	シルト質粘土	

層位	土色	土性	備考
J-J'			
SA272			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	柱痕跡
2	10YR3/4 暗褐色	粘土	
3	10YR2/3 黒褐色	粘土	
SA1380			
1	10YR3/3 暗褐色	粘土	柱痕跡
2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	
4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
5	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	
SD1367			
1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	
2	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄を多量に含む
3	10YR2/3 黒褐色	シルト	酸化鉄を多量に含む
SA1390 K-K'			
1	10YR3/4 暗褐色	粘土	

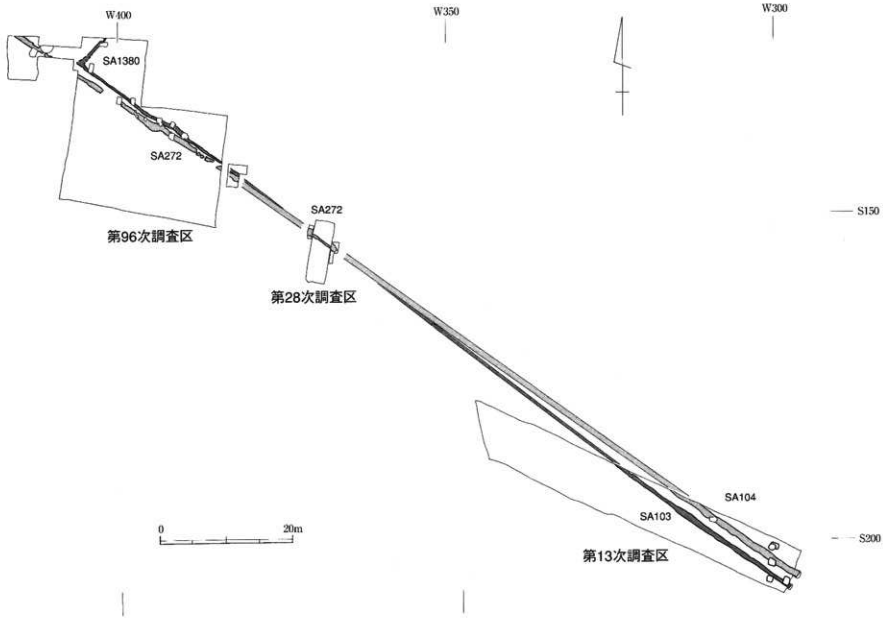
第56図　SA272・1380　断面図



第57図　Ⅰ期官衙南辺1



第58図　Ⅰ期官衙南東辺1



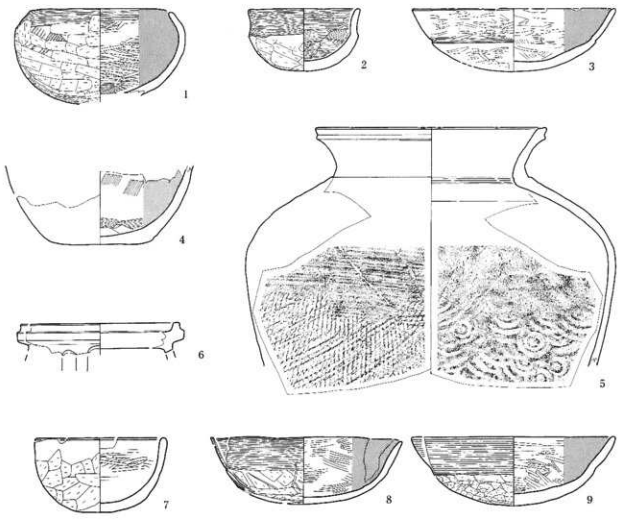
第59図　Ⅰ期官衙南辺模式図

［Ⅰ期官衙西辺］

SD1394溝跡（第99、103、104次・第61、65図）

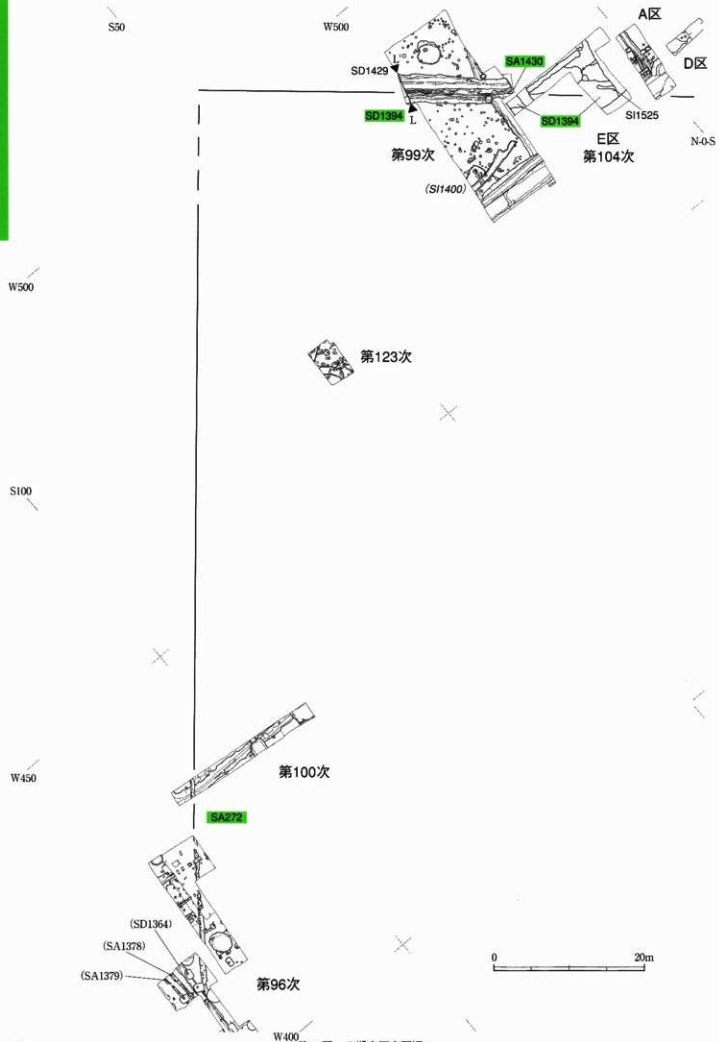
上幅185～378cm、下幅110～140cm、深さ90cmで、断面形は逆台形あるいは舟底形を呈する（第99、103次）。壁は直立気味に立ち上がり、検出面より50cm程の所から緩やかに開き始める（第99次）。第103次調査のSD1492溝跡と連続していると考えられ、それを含めると検出した総長は80m程である。方向はN－35°－Eである。

遺物は底面より体部中位に段を有し、内外面ヘラミガキされた土師器C－750坏（第60図３）、須恵器坏の形態を模倣したような土師器C－732坏（第60図２）、丸底で内面黒色処理された球形の土師器C－739坏（第60図１）、その他に底部のみの土師器C－742甕（第60図４）、口縁部から体部中半にかけての須恵器E－369甕（第60図５）が出土している



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-739	土師器	坏	SD1394	底面	残存高7.5　口径11.3	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ミガキ、黒色処理	AⅣ2a	99	746
2	C-732	土師器	坏	SD1394	底面	残存高4.9　口径（8.8）	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→当ヘラミガキ、体部ヘラナデ	CⅣ	99	746
3	C-750	土師器	坏	SD1394	底面	残存高5.0　口径（16.0）	口縁部ヨコナデ→ミガキ体部ヤケズリ→ミガキ	ミガキ、黒色処理	AⅡ2	99	746
4	C-742	土師器	甕	SD1394	底面	残存高6.3　底径7.8	体部磨滅、底部木葉痕	体部・底部ヘラナデ、黒色処理		99	
5	E-369	須恵器	甕	SD1394	底面	残存高18.8　口径18.2	口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→タタキ	口縁部ロクロナデ、体部同心円文	1	99	746
6	K-372	鉄製品	刀子?	SD1492	1	残存長2.5　器幅（11.6）	ロクロナデ	ロクロナデ	SD1394	103	
7	C-736	土師器	坏	SD1492	2	器高5.8　口径10.4	体部ケズリ	ミガキ	SD394、CV	103	748
8	C-738	土師器	坏	SD1492	1	器高5.3　口径（15.4）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ミガキ、黒色処理	SD394、AⅡ2	103	748
9	C-737	土師器	坏	SD1492	2	器高15.4　口径16.0	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ミガキ、黒色処理	SD394、AⅡ2	103	748

第60図　SD1394　出土遺物



第61図　Ⅰ期官衙南西辺1

(第99次)。また別地点の堆積土中より、椀形の土師器C-756坏(第60図7)、内面黒色処理された土師器C-757坏(第60図9)、C-758坏(第60図8)、長方形の透かし穴があると推定されるE-372円面硯(第60図6)の破片などが出土している(第104次)。

SD1429・1474溝跡を切り、SA1430材木列とその抜き取り溝、SI1493竪穴遺構、SD1478溝跡に切られている。

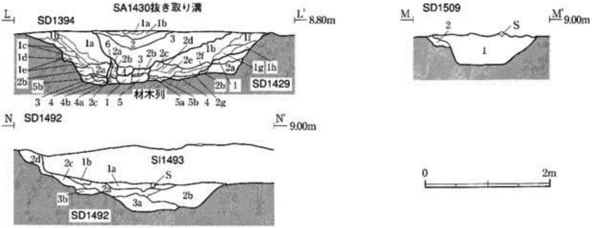
SA1430材木列(第99、103、104次・第61、65図)

抜き取りが深く、掘り方および材木痕跡を調査区の一部で検出した。方向はE—33°—Sである。上幅60~74cmで、遺構の検出される上面からの深さは86cmである。掘り方底面まで完全に抜き取りが及ぶ箇所もある。抜き取りの深度が浅い部分では直径18~26cmの材痕跡が検出された。掘り方の壁は底面に対し垂直に立ち上がっている。

抜き取りは掘り方を切りながら、同方向に延びている。上幅は220cm、断面形はV字形である。西壁の立ち上がりが緩やかで、やや乱れていることから、西側から抜取られた可能性が考えられる(第99次)。

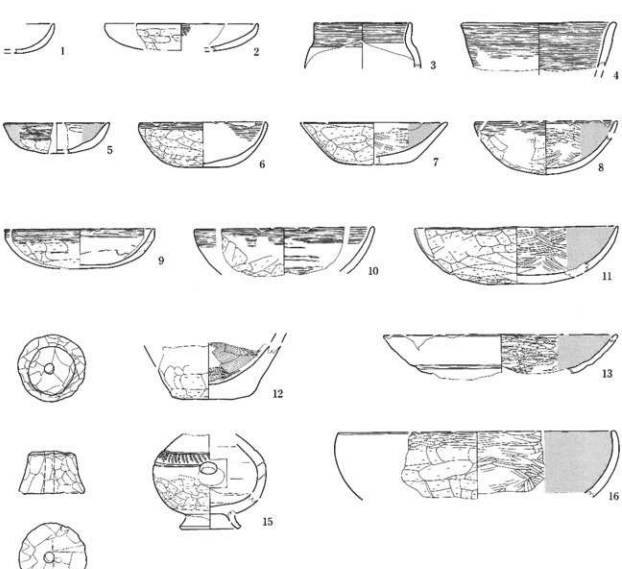
遺構の検出状況から第103次調査で発見されているSD1509溝跡に連結していると推定される。

遺物は掘り方埋め土中から、内面に漆付着した土師器C-740壷(写真図版747)の底部片が出土した。また抜き取りからは両面黒色処理された土師器C-753坏(第63図5)、関東地方の土師器の特徴を有するC-736・752・735・738・745坏(第63図6、1、2、9、10)、C-734小型壷の口縁部片(第63図3)、体部外面に段がなく内面黒色処理されたC-743、737坏(第63図7、8)、椀形に丸みのあるC-744坏(第63図16)、扁平で沈線の入るC-751坏(第63図13)、扁平で沈線や段の入らないC-755坏(第63図11)、小形の口縁部のみのC-748鉢(第63図4)、小形の底部のみのC-



遺構	層位	土色	土質	備考
L-L'				
SA1430 抜取溝	1a	10YR4/4 褐色	シルト	にぶい黄橙・暗褐色土、焼土、炭化物を含む
	1b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄褐色土、マンガン粒、炭化物を含む
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙シルト、少量の土器片、マンガン粒を含む
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	土器片、焼土、炭化物、マンガン粒、多量の[illegible]を一部含む
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄、マンガン粒を含む
SA1430 材木列	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄、少量の炭化物を含む
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙土を含む
	2b	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒、酸化鉄、微量の炭化物を含む
	2c	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄を含む
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	2層よりも暗く、酸化鉄を含まない
	4a	10YR7/3 にぶい黄橙色	粘土	白色粘土を斑状に含む、多量の酸化鉄を含む
	4b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	マンガン粒を含む
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	にぶい黄橙色土、酸化鉄、少量の炭化物を含む
	6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	多量のマンガン粒、酸化鉄を含む、[illegible]
SD1394 堆積土	1a	10YR4/3 にぶい黄橙色	シルト質粘土	少量の焼土、炭化物、多量のマンガン粒を含む
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト質粘土	黒褐色土、褐色土粒、マンガン粒を含む
	1c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	灰黄褐色土を含む
	1d	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質粘土	にぶい黄橙色土、マンガン粒、酸化鉄を含む
	1e	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色土、多量の酸化鉄を含む
	1f	10YR4/4 褐色	シルト質粘土	黒褐色土、多量のマンガン粒を含む
	1g	10YR3/4 暗褐色	シルト質粘土	黒褐色土、にぶい黄橙色土粒を含む
	1h	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐色土、にぶい黄橙色土粒、マンガン粒を含む
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	下層に灰黄褐色土を含む、多量の酸化鉄、マンガン粒を含む
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色土、酸化鉄を含む
	2c	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙色土、酸化鉄を含む
	2d	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	少量の炭化物と酸化鉄を含む
	2e	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物と酸化鉄を含む
	2f	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色粘土質シルト、酸化鉄、マンガン粒を含む
	2g	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	にぶい黄橙粘土質シルト、酸化鉄を含む
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	酸化鉄、マンガン粒を少量含む
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	酸化鉄、マンガン粒を含む
	5a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土	にぶい黄橙粘土質シルト、酸化鉄を含む
	5b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	灰黄褐・にぶい黄橙色土、マンガン粒を含む
SD1429 堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	暗褐・にぶい黄橙色土・酸化鉄、マンガン粒を含む
	2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐シルト質粘土、黒褐シルト、酸化鉄を含む
	2b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	灰黄褐粘土質シルト、酸化鉄、マンガン粒を含む
M-M'				
SD1509	1	10YR5/1 褐灰色	シルト質粘土	
	2	10YR8/2 灰白色	シルト	
N-N'				
SD1492 堆積土	1a	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	
	1b	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土	白色粘土を少量含む
	2a	10YR4/1 褐灰色	粘土	
	2b	10YR4/1 褐灰色	粘土	白色粘土ブロックを含む
	2c	10YR6/1 褐灰色	粘土	白色粘土を少量含む
	2d	10YR6/1 褐灰色	粘土	白色粘土ブロックを含む
	3a	5Y4/1 灰色	粘土	白色粘土ブロックを含む
	3b	5Y4/1 灰色	粘土	白色粘土を少量含む

第62図　SA1430、SD1394・1509・1492　断面図



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-752	土師器	坏	SA1430		LH件（12.6）、残存高2.3	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	LH縁部・体部ヨコナデ→暗ナデ	BIV1	99	
2	C-735	土師器	坏	SA1430		口径（12.4）、残存高3.2	LH縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ナデ、体部摩滅	BIV2	99	
3	C-734	土師器	小型壺	SA1430		LH径2.8、残存高3.65	LH縁部ヨコナデ	LH縁部ヨコナデ	I	99	
4	C-740	土師器	鉢	SA1430		LH径12.6、残存高3.0	LH縁部ヨコナデ	LH縁部ヨコナデ	CV	99	
5	C-753	土師器	坏	SA1430		LH件（8.6）、残存高2.4	口縁部・体部ナデ→ミガキ、丸底ヘラケズリ、黒色処理	ミガキ、黒色処理	AIV2a	99	
6	C-736	土師器	坏	SA1430		口径（5.1）、器高3.1	LH縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	口縁部・体部ヨコナデ	IIIV1	99	747
7	C-743	土師器	坏	SA1430		口径（11.8）、残存高3.4	ヘラケズリ	ミガキ、黒色処理	AIV2a	99	
8	C-737	土師器	坏	SA1430		LH件（11.4）、器高4.3	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	ミガキ、黒色処理	AIV1a	99	
9	C-738	土師器	坏	SA1430	底面	口径（12.2）、器高3.2	LH縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ	BII2	99	
10	C-745	土師器	坏	SA1430		LH件（14.6）、残存高3.7	LH縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヨコナデ	BIV1	99	
11	C-755	土師器	坏	SA1430		LH径（8.2）、残存高4.6	ヘラケズリ	ミガキ、黒色処理	AIV1a	99	
12	C-746	土師器	甕	SA1430		残存高4.5、底径4.6	体部ヘラケズリ、底部摩滅	体部ヘラナデ		99	
13	C-751	土師器	坏	SA1430		LH件（9.5）、残存高3.6	口縁部・体部摩滅、底縁	ミガキ、黒色処理	AII3	99	
14	P-27	土製品	羽釜	SA1430	底面	鍔径5.3、厚さ3.4、孔径径0.8	ヘラケズリ			99	747
15	E-371	青磁碗	碗	SA1430	焼面	復原底径（8.2）、残存部2、底径9	体部ヘラケズリ、沈線	体部ロクロナデ		99	747
16	C-744	土師器	坏	SA1430		LH径（22.2）、残存高5.4	口縁部ミガキ、体部ケズリ	ミガキ、黒色処理	AIV1a	99	
17	E-370	瓦質器	鉢	SA1430		口径（24.4）、残存高7.3	LH縁部ロクロナデ、体部タテキ	口縁部ロクロナデ、体部同心円文	I	99	747

第63図　SA1430　出土遺物

746甕(第63図12)や、外面に平行叩き目、体部の内面に同心円文の当て具痕跡が明瞭な須恵器E-370甕(第63図17)、体部が球形で列点刺突巡る須恵器E-371甕(第63図15)、土製品P-27紡錘車(第63図14)などが出土している。

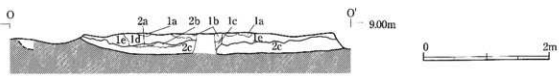
SD1394・1429溝跡を切っている。

SI1475竪穴住居跡（第103次・第65図）

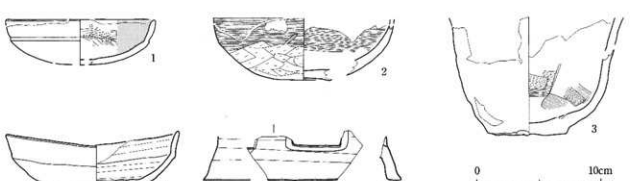
東西4.5m、南北4.1mで、北壁の方向はN—41°—Eである。検出面から床面までの残存する高さは25～32cmである。カマドは北壁中にあり、ソデと長さ95cmの煙道を有している。床面上には全面に渡り、炭化物が薄く堆積している。床面上からは主柱穴や周溝は検出されなかった。

遺物は床面より、体部外面に明瞭な段を有し、内面黒色処理された土師器C-761坏(第64図1)、体部下半のみのC-762甕(第64図3)、やや歪みのある須恵器E-374坏(第64図4)、小破片ではあるがE-373円面硯(第64図5)が出土している。また堆積土中からは内面に横ナデの後にヘラミガキの施された土師器C-763坏(第64図2)が出土している。

SI1475

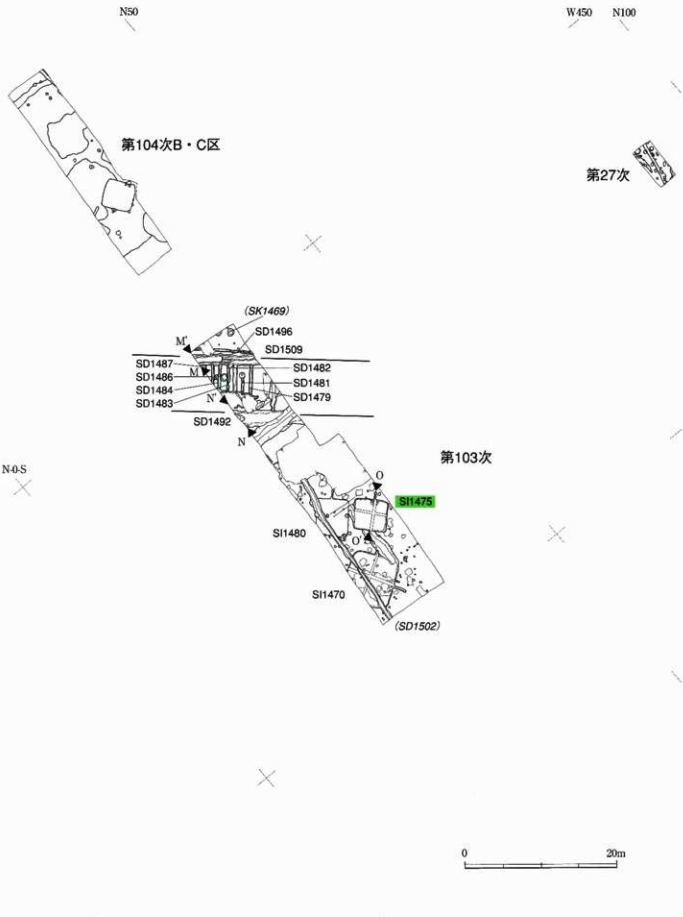


層位	土色	土性	備考
1a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄、マンガン粒をまばらに含む
1b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄、マンガン粒を少量に含む
1c	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄を含み、焼土を少量含む
1d	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土を含み、酸化鉄を全体に含む
1e	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	酸化鉄を全体に含み、焼土を微量に含む
2a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土を全体に含む
2b	10YR3/2 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土を全体に含む
2c	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色土を全体に含み、炭化物を少量含む
2d	10YR3/3 黒褐色	シルト質粘土	酸化鉄を全体に含み、炭化物を下層部にまばらに含む



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量 (cm)	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-761	土師器	坏	SI1475	床面	口径 (11.9)、残存高3.6	摩滅	体部ミガキ、黒色処理	A群2	103	7-8
2	C-763	土師器	坏	SI1475		残存高4.9、底径4.1	体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	体部ヨコミガキ	黒斑化 A群1	103	7-8
3	C-762	土師器	甕	SI1475	床面	残存高9.4、底径6.4	体部摩滅、底部木葉痕	体部ヘラナデ		103	
4	E-374	須恵器	坏	SI1475	床面	口径13.7、器高4.6、底径8.0	口縁部・体部ロクロナデ、底部引ヘラケズリ	ロクロナデ	I 1b	103	7-8
5	E-373	須恵器	円硯	SI1475	床面	残存高4.0、底径（15.8）	脚部ロクロナデ	脚部ロクロナデ		103	

第64図　SI1475　断面図、出土遺物



第65図　Ⅰ期官衙西辺1

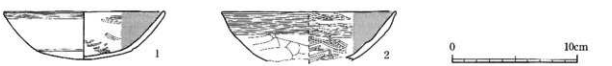
［Ⅰ期官衙南東方］（官衙外）

官衙の外側に位置するが、きわめて計画的に配置され、Ⅰ期官衙南部の遺構と同じ方向を示している。Ⅱ期官衙期の遺構との重複もあるため、Ⅰ期官衙期の遺構としてここに掲載する。

SI458竪穴住居跡（第38次・第68図）

一辺5mの竪穴住居跡と見られるが、南半が調査区外となるため規模等は不明である。壁高が10～20cm残存し、壁に沿って幅15～50cm、深さ3～28cmの周溝が巡っている。床面はほぼ全面に貼床が認められ、北西壁にカマドが付設されている。カマドには長さ160cm、幅25～30cm、深さ10cmの煙道があり、先端部には直径25cm、深さ25cmのピット状を呈した煙出しがある。カマド周辺の床面上からは多量の焼土が検出されている。北西壁の方向はN—41°—Wである。ピットは床面上で9つ検出したが、主柱穴は不明である。

遺物はカマド周辺の焼土上から、体部の下端に段のある内面黒色処理された土師器C-402坏（第66図1）、体部上半に弱い沈線上の境がある土師器C-403坏（第66図2）が出土している。



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構		法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-402	土師器	坏	SI458		器高3.7、口径13.0	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ？	ヘラミガキ、黒色処理	図版転載に誤	38	698
2	C-403	土師器	坏	SI458	P7	残存高3.9　口径14.0	口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	A B 2	38	698

第66図　SI458　出土遺物

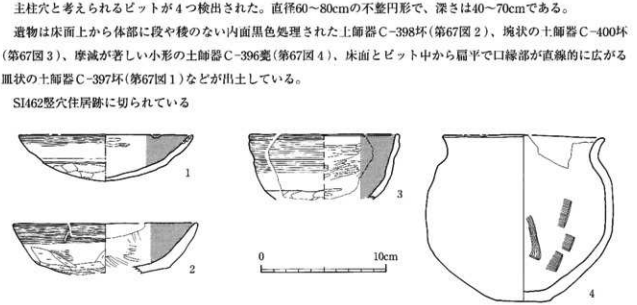
SI463竪穴住居跡（第38次・第68図）

一辺5ｍ程の竪穴住居跡と見られ、南西端のみが調査区外に延びている。壁高が10～20cm残存し、壁に沿って幅10～20cm、深さ3～10cmの周溝が巡っている。床面はほぼ全面に貼床が認められ、北東壁にカマドが付設されている。カマドには長さ180cm、幅25～50cm、深さ15cmの煙道があり、先端部には直径40cm、深さ30cmのピット状を呈した煙出しがある。煙道と燃焼部中央を通る方向は、N—45°—Eである。

主柱穴と考えられるピットが4つ検出された。直径60～80cmの不整円形で、深さは40～70cmである。

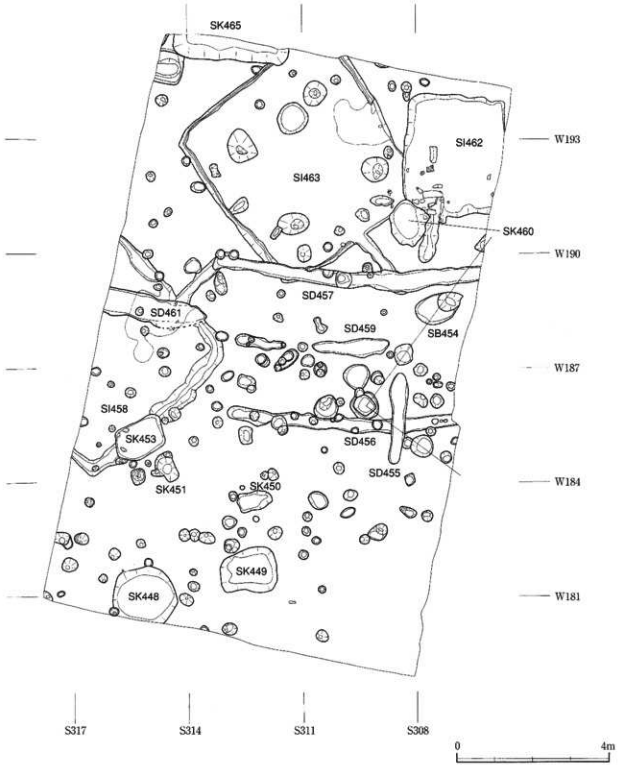
遺物は床面上から体部に段や稜のない内面黒色処理された土師器C-398坏（第67図2）、塊状の土師器C-400坏（第67図3）、摩滅が著しい小形の土師器C-396甕（第67図4）、床面とピット中から扁平で口縁部が直線的に広がる皿状の土師器C-397坏（第67図1）などが出土している。

SI462竪穴住居跡に切られている



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-397	土師器	坏	SI463		器高3.75、口径14.0	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	A B 2	38	698
2	C-398	土師器	坏	SI463	床面	残存高4.1、口径15.0	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	A B 3	38	698
3	C-400	土師器	坏	SI463		残存高5.1、口径（12.0）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	A B 3	38	
4	C-396	土師器	甕	SI463	床面	器高13.4、口径13.0、底径4.4	体部ヘラナデ	体部煤付着	図版転載に誤	38	698

第67図　SI463　出土遺物



第68図　第38次調査区平面図

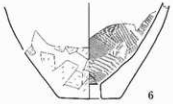
［Ⅰ期官衙出土のその他の遺物］

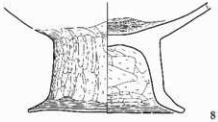
ここでは各遺構の記述はしないが、Ⅰ期官衙から出土した遺物の中で重要なものを掲載する。遺構の詳細については、次に載せたⅠ期官衙遺構表、あるいは年度毎に発刊している『発掘調査概報』を参照して頂きたい。

SA276［第24次］

SI581［第48次］

SI835［第62次］



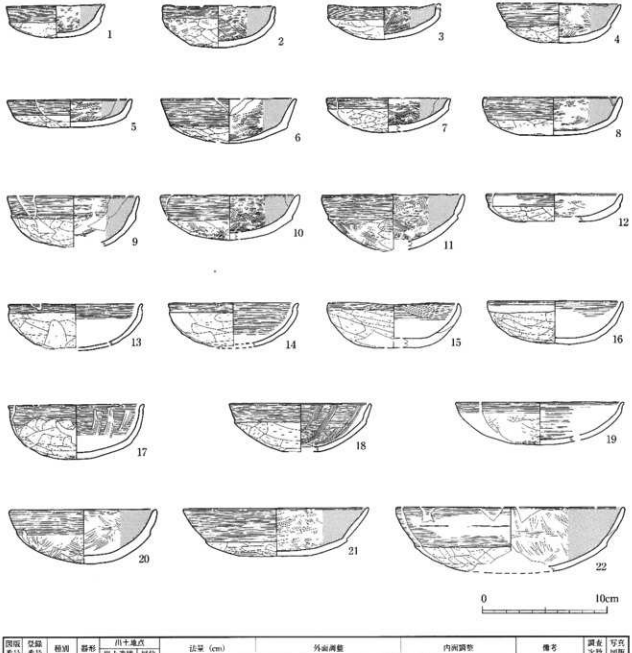


SI1386［第98次］

0　10cm

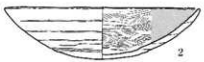
図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-213	土師器	坏	SA276		残存高3.8　口径（6.1）	口縁部・体部ヘラケズリ	口縁部・体部ヘラナデ		B下2	24	
2	E-251	須恵器	坏	SI581	床面	器高3.8　口径17.6	口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→底面回転ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	ロクロナデ		I 3	48	
3	C-607	土師器	坏	SI835		器高6.0　口径15.4	口縁部ヨコナデ→ヘラナデ、体部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ→ヘラミガキ、暗文→放射ヘラミガキ、黒色処理		A Ⅱ2	62	717
4	C-617	土師器	甕	SI835		残存高16.4　口径21.2	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ	口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ		B Ⅰ2	62	717
5	C-726	土師器	坏	SI1386		残存高5.3　口径（16.2）	口縁部ヨコナデ、体部ハケメ→ケズリ	口縁部・体部ヨコナデ		B下2	98	
6	C-728	土師器	甑	SI1386		残存高7.7　底部5.0	体部ケズリ	体部ハケメ→ナデ、底部ヘラナデ		Ⅱ	98	
7	E-365	須恵器	高坏	SI1386		器高7.4　口径16.2	口縁部・体部ロクロ・沈線、底部手持ちヘラケズリ	ロクロ		Ⅰ	98	
8	C-731	土師器	高坏	SI1386	床面	残存高9.9　底径12.5	口縁部ヨコナデ・ミガキ、脚柱部ナナメナデ、脚裾ヨコナデ	口縁部ミガキ、脚柱部ケズリ、脚裾部ヨコナデ		B Ⅰ	98	745

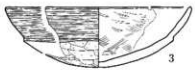
第69図　Ⅰ期官衙出土遺物（1）

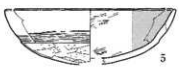


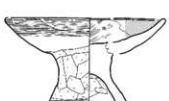
図版番号	登録番号	種別	器形	出土遺構	層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-060	土師器	坏	SX2093	2	器高2.6　口径7.9	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB2	147	791
2	C-061	土師器	坏	SX2093	2或1	器高3.9　口径8.9	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラミガキ、ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB1a	147	791
3	C-062	土師器	坏	SX2093	2	器高2.6　口径8.9	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB2	147	791
4	C-063	土師器	坏	SX2093		器高3.1　口径10.0	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB3	147	
5	C-064	土師器	坏	SX2093		器高2.2　口径（10.0）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB3	147	789
6	C-070	土師器	坏	SX2093	1	器高4.6　口径（10.8）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB3	147	789
7	C-065	土師器	坏	SX2093	1	器高2.7　口径（9.8）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	摩滅が著しい、AB1a	147	789
8	C-052	土師器	坏	SX2093	1	器高3.1　口径11.2	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB3	147	789
9	C-051	土師器	坏	SX2093	3	残存高4.1　口径（10.6）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	酸化鉄付着、AB2	147	792
10	C-054	土師器	坏	SX2093	1	器高3.7　口径（11.0）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理	AB2	147	789
11	C-057	土師器	坏	SX2093	1	残存高4.4　口径11.2	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理	AB2	147	789
12	C-058	土師器	坏	SX2093	1	残存高2.3　口径（11.0）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ	再酸化か、AB2	147	
13	C-042	土師器	坏	SX2093	1	残存高3.3　口径10.8	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	ヨコナデ	BB	147	789
14	C-063	土師器	坏	SX2093	1	残存高3.5　口径10.4	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	ヘラナデ	BB	147	789
15	C-050	土師器	坏	SX2093	2	器高3.6　口径10.4	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	ヨコナデ	BB2	147	791
16	C-056	土師器	坏	SX2093	3	器高3.5　口径10.9	口縁部ヨコナデ後風、体部・底部ヘラケズリ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	BB1	147	792
17	C-071	土師器	坏	SX2093	1	器高4.4　口径（11.0）	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラミガキ	BB	147	789
18	C-075	土師器	坏	SX2093	1	残存高3.9　口径11.4	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヨコナデ→ヘラナデ	BB	147	789
19	C-073	土師器	坏	SX2093	2	器高3.3　口径（13.6）	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ	ヨコナデ、一部摩滅	BB	147	791
20	C-047	土師器	坏	SX2093		器高4.3　口径11.9	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理	AB2	147	
21	C-066	土師器	坏	SX2093	1	器高3.8　口径14.8	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB3	147	789
22	C-048	土師器	坏	SX2093	1	残存高5.1　口径（18.4）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AB2	147	789

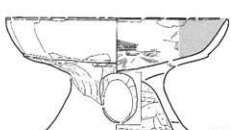
第70図　1期官衙出土遺物（2）





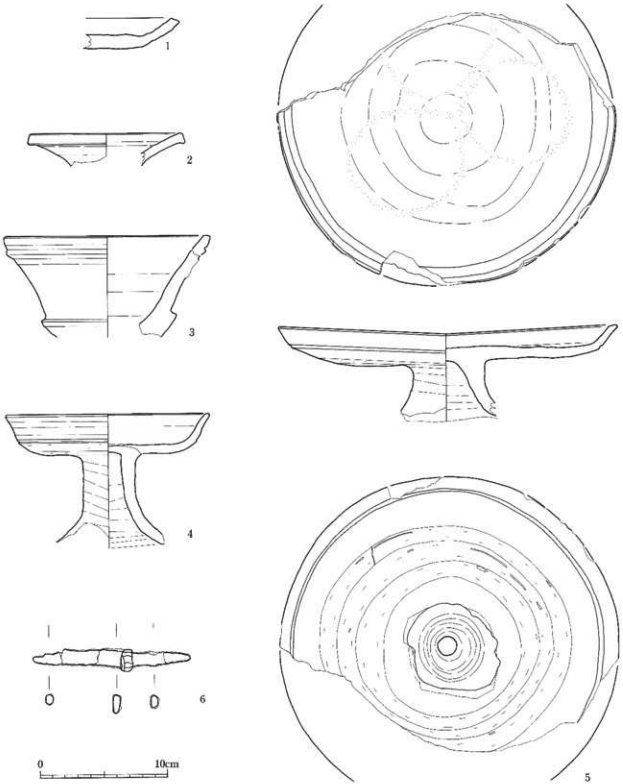






図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	出土地点 層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	C-945	土師器	坏	SX2093		器高3.7 口径11.7	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AⅡ2	147	789
2	C-954	土師器	坏	SX2093	2	器高4.2 LI径15.6	口縁部～体部煤減	ヘラミガキ、黒色処理	AⅡ3	147	791
3	C-967	土師器	坏	SX2093	1	器高4.8 口径（13.0）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ	赤褐化か、AⅡ2	147	789
4	C-953	土師器	坏	SX2093	1	器高4.3 口径13.9	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AⅡ2	147	789
5	C-949	土師器	坏	SX2093	2	残存高4.4 LI径（13.6）	体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	輪積痕跡、AⅡ2	147	791
6	C-955	土師器	坏	SX2093	1	残存高3.5 口径（19.4）	口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理	AⅡ2	147	790
7	C-968	土師器	高坏	SX2093	1	残存高2.7 口径（29.8）	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・ヘラケズリ	ヘラミガキ、黒色処理		147	790
8	C-946	土師器	高坏	SX2093	1	残存高4.9 口径（17.4）	口縁部ヨコナデ→ヘラケズリ、脚部ヘラケズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ、黒色処理		147	
9	C-969	土師器	高坏	SX2093	1	残存高6.0 底径11.9	脚部ハケメ→ヘラケズリ→ヨコナデ	斜位ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ・ヨコナデ	変化鉄付着、AⅡ1	147	789
10	C-972	土師器	高坏	SX2093	2	器高6.2 LI径11.1 底径7.8	体部ヘラケズリ、脚部ヘラナデ	坏部ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラナデ	AⅡ1	147	791
11	C-971	土師器	高坏	SX2093	1	器高7.4 口径（12.8） 底径7.6	口縁部ヨコナデ、脚部ヘラケズリ→ヨコナデ	坏部ヘラミガキ・黒色処理、脚部ヘラナデ、斜位ヨコナデ	AⅡ1	147	789
12	C-941	土師器	高坏	SX2093	1	器高9.9 口径18.8 底部13.6	口縁部摩滅、体部ヘラケズリ	坏部ヘラナデ→ヘラミガキ、黒色処理、脚部ヘラケズリ	歪は一対、I	147	790

第71図　Ⅰ期官衙出土遺物（3）



図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	E-482	須恵器	蓋	SX2093	2層南	残存高2.4　口径（42.6）	体部ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ	ロクロナデ		147	791
2	E-485	須恵器	坏蓋	SX2093	2	残存高2.7　口径12.0	ロクロナデ	ロクロナデ		147	
3	K-479	須恵器	鉢	SX2093		残存高8.0　口径16.2	ロクロナデ	ロクロナデ	外面に自然釉	147	786
4	E-483	須恵器	高杯	SX2093		残存高10.5　口径15.7	口縁部ロクロナデ→回転ヘラケズリ、脚部ロクロナデ	ロクロナデ	1:1	147	788
5	E-477	須恵器	鉢	SX2093	1	残存高7.6　口径20.5	口縁部ロクロナデ、体部ロクロナデ→回転ヘラケズリ、底部ロクロナデ	ロクロナデ		147	789
6	N-119	金属器	刀子	SX2093		残存長12.4　厚 5.0-8　幅1.5				147	

第72図　Ⅰ期官衙出土遺物（4）

	規模（m）桁行×梁行	間　数 桁行×梁行	柱間（cm）桁行・梁行	主軸方向	特　徴	重　　複	本書掲載箇所	備　　考
SB　13	7.3×4.9	4×2	180・240	E－32°－S	東西棟 総柱建物	SD324を切っている	第14図 P39・40	第31次・郡山Ⅲ P68
SB　15	2.4以上×2.4以上	1以上×1以上	240・240	N－29°－E	不　明	SD20を切っている	—	第２次　郡山Ⅰ P12
SB　17	5.0×3.7	2×2	240～270・180	E－30°－S	南北棟	SB14、SD18に切られている	第14図 P39・40	第31次　郡山Ⅲ P68
SB　31	8.6×6.4（推定）（推定）	3×3	270・210	N－31°－E	東西棟（推定）	SA33、SD35に切られる（推定）	第21図 P45	第４次　郡山Ⅰ P18
SB　32	2.6×2.6	1×1	260・260	N－31°－E	方形造	なし	第21図 P45	第４次　郡山Ⅰ P19
SB　63	3.3以上×1.5以上	3以上×2以上	150～180・150	N－31°－E	不　明	なし	第35図 P56	第１次　郡山Ⅰ P11
SB 236	7.7×4.8	4×2	190～200・230～240	E－32°－S	東西棟 総柱建物	SD224に切られている	第35図 P56	第24次　郡山Ⅲ P30
SB 237	4.9×4.6	2×2	235～260・230～240	N－32°－E	東西棟 総柱建物	SB246を切っている	第35図 P56	第24次　郡山Ⅲ P26・50
SB 245	5.1×4.2	2×2	250～260・210	N－32°－E	南北棟 総柱建物	SB246を切っている	第43図 P62	第24次　郡山Ⅲ P26・50
SB 246	9.6×4.2	4×2	240・210	E－30°－S	東西棟	SB237・245に切られている	第43図 P62	第24次　郡山Ⅲ P26
SB 278	9.9×6.6	6×4	150～180・150～180	E－33°－S	東西棟 総柱建物	SB1290に切られている SD225、SB302、SK294に切られている	—	第86次　郡山XI P11（第24次　郡山Ⅲ P15）
SB 279	10.8×4.2	4×2	244～270・210	E－32°－S	東西棟	なし	第35図 P56	第35次　郡山Ⅳ P27
SB 287	9.9×5.6	5×2	180～210・270～280	N－34°－E	南北棟 総柱建物	SI290を切っており、SI288・289に切られている	第43図 P62	第24次　郡山Ⅲ P25
SB 311	4.9以上×2.1	3×1	150、190、150・210	E－30°－S	東西棟 門	SI300・301を切っている	第35図 P56	第24次　郡山Ⅲ P22・50
SB 353	3.3×3.3	1×1	330・330	E－33°－S	櫓	SE271に切られている	第35図 P56	第24次　郡山Ⅲ P25・50
SB 355	3.3×3.3	1×1	330・330	E－33°－S	櫓	SE300・301を切っており、SA277・329に切られている	第35図 P56	第24次　郡山Ⅲ P25・50
SB 361	2.4以上×不明	1×不明	240・不明	E－32°－S	不　明	なし	第43図 P62	第24次　郡山Ⅲ P37
SB 373	4.5×不明	2×不明	240・不明	E－32°－S	不　明	なし	第43図 P62	第24次　郡山Ⅲ P33
SB 381	不明×5.5	不明×2	不明・270～280	E－32°－S	南北棟	なし	第43図 P62	第24次　郡山Ⅲ P29
SB 383	7.1以上×3.5	2～3以上×2	150～280・160～190	N－36°－E	南北棟	なし	—	第24次　郡山Ⅲ P29
SB 420	9.0×4.5	4×2	204～248・207～246	N－32°－E	南北棟	SB473を切っており、SB422、SK389、SD273に切られている	第35図 P56	第35次　郡山Ⅳ P23
SB 421	2.27以上×2.11以上	1以上×1以上	227・211	N－32°－E	不　明	SD273に切られている	第35図 P56	第35次　郡山Ⅳ P23
SB 422	9.7×5.0	6×2	179～210・245～274	N－33°－E	南北棟	SB420を切っており、SD275・385、SK388・394・404・413に切られている	第35図 P56	第35次　郡山Ⅳ P23
SB 424	10.5×8.0	5×4	189～237・120～220	N－32°－E	南北棟	なし	第35図 P56	第35次　郡山Ⅳ P27

第４表　Ⅰ期官衙　遺構表（1）

	規模（m）桁行×梁行	面　積 桁行×梁行	柱間（cm）桁行・梁行	主軸方向	特　徴	重　　複	本書掲載箇所	備　　考
SB 425	12.9×5.1	5×2	237～273・216～270	N−32°−E	南北棟	SB432A・B、SA386、SD385、SE347に切られている	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P28
SB 432	11.3×4.4	5×2	210～240・213～232	N−33°−E	南北棟	SB425を切っており、SA386、SD385に切られている	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P28
SB 437	4.9以上×7.1以上	2以上×3以上	216～274・220～245	N−32°−E	不　明	SI412、SK407に切られている	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P24
SB 438	2.6×2.4	1×2	260・120	N−32°−E	四脚門	SB439・440、SK402に切られている	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P20
SB 439	8.6×4.25	4×2	196～245・205～220	N−34°−E	南北棟	SI411、SA433を切っており、SB438A・Bより新しく、SB440に切られている	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P20
SB 440	6.6以上×4.1	3以上×2	190～210・204～206	N−34°−E	南北棟	SI411、SA433、SB439を切っており、SB438A・Bより新しい	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P20
SB 473	3.3以上×2.91以上	2以上×2以上	140～190・111～180	N−32°−E	不　明	SD420、SK393、SD273に切られている	第35図 P56	第35次　都山Ⅳ P23
SB 490	6.0以上×3.7	2以上×2	280～320・170～200	N−38°−E	南北棟 総柱建物	SA33に切られている	第20図 P44	第43次　都山Ⅴ P7
SB 527	4.0×4.0	2×2	171～201・179～220	N−35°−E	方形造	P130に切られている	第25図 P49	第44次　都山Ⅴ P16
SB 528	6.7×3.6	4×2	153～180・175～191	N−32°−E	東西棟	SI568を切っており、SK516・523に切られている	第25図 P49	第44次　都山Ⅴ P16
SB 534	7.3×4.5	3×2	240～(247)・216～233	N−36°−E	東西棟	SI520・568、SK531を切っており SI565に切られている	第25図 P49	第44次　都山Ⅴ P16
SB 604	6.3以上×2.0以上	4以上×2以上	203～209・220	N−33°−E	不　明	SI607を切っている	第46図 P65	第48次　都山Ⅴ P64
SB 655	11.76以上×4.81以上	6以上×2以上	185～207・227～254	E−31°−N	東西棟 総柱建物	SK692を切っており、SA651、SD638、SK634・685・686に切られている	第14図 P39・40	第51次　都山Ⅵ P12
SB 678	7.05以上×2.65以上	3以上×1以上	209～260・265	N−31°−E	総柱建物	SB702を切っており、SK653・657に切られている	第14図 P39・40	第51次　都山Ⅵ P12
SB 700	5.7以上×6.7	2以上×3	270～300・170～248	N−33°−E	総柱建物	SB701、SB699、SA636、SX622、SB705に切られている	第14図 P39・40	第51次　都山Ⅵ P15
SB 701	7.44以上×7.1～7.4	3以上×3	242～265・217～263	N−32°−E	総柱建物	SB700を切っており、SB699、SA636、SB694・705に切られている	第14図 P39・40	第51次　都山Ⅵ P15
SB 773	1.9以上×不明	1以上×不明	190・不明	E−26°−S	不　明	SD429、P222に切られている	第25図 P49	第55次　都山Ⅵ P44
SB 775	7.4（推定）×5.0	4（推定）×2	220～240・220～280	N−33°−E	南北棟	SB16801に切られている	第14図 P39・40	第115次　都山XVIII P5・15
SB 791	4.2以上×3.72以上	2以上×2以上	210・164～208	E−33°−S	不　明	なし	第14図 P39・40	第60次　都山Ⅶ P7
SB 818	4.3×2.06以上	2×1以上	206、222・206	E−27°−S	不　明	SB793に切られている	第43図 P62	第61次　都山Ⅶ P12
SB 819	2.06以上×不明	1以上×不明	206・不明	E−36°−S	不　明	SB793に切られている	第43図 P62	第61次　都山Ⅶ P12
SB 1020	4.0以上×1.5以上	2以上×1以上	240・150	E−33°−S	東西棟	SD1023、SK1024を切っている	第35図 P56	第68次　都山Ⅷ P8
SB 1021	不明×不明	不明×不明	不明・不明	E−30°−S	不　明	なし	第35図 P56	第68次　都山Ⅷ P8
SB 1070	6.44以上×4.75	3以上×2	210～216・230～245	E−31°−S	東西棟 総柱建物	SB14・1069、SD19に切られている	第43図 P62	第71次　都山Ⅷ P51

第５表　Ⅰ期官衙　遺構表（2）

	規模（m）桁行×梁行	面　積 桁行×梁行	柱間（cm）桁行・梁行	主軸方向	特　徴	重　複	本書掲載箇所	備　考
SB 1073	不　明	不　明	不　明	不　明	不　明	SI1071を切っている	—	第72次　都山Ⅷ P53～55
SB 1205	16.0以上×不明	6以上×不明	260～280・不明	N－30°－E	不　明	SA1204に切られ、SB1209を切っている	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P15
SB 1207	9.8×4.2	4×2	240～250・210	E－30°－S	東西棟	SA1204に切られる	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P15
SB 1208	7.8×4.8	4×2	188～210・240	E－33°－S	東西棟 総柱建物	SA1212、SB1215に切られる	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P15
SB 1209	7.2以上×5.4	4以上×2	220～250・260～280	N－33°－E	南北棟	SB1205に切られる	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P15・35
SB 1218	8.0×5.0	4×2	196～200・250	E－33°－S	東西棟 総柱建物	SA1220、SB1210・1215、SX1224に切られる	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P16
SB 1224	22以上（推定）×21以上（推定）	1以上×1以上	220（推定）・210（推定）	E－32°－S	不　明	SB1225、SX1217に切られる	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P16
SB 1225	3.0以上×不明	1以上×不明	300・不明	E－32°－S	不　明	SB1224を切り、SX1217に切られる	第14図 P39・40	第77次　都山Ⅸ P16
SB 1230	7.2以上×4.9以上	3以上×3以上	220～250・180～200	N－35°－E	総柱建物（推定）	なし	第14図 P39・40	第83次　都山Ⅹ P7
SB 1243	9.1以上×4.1以上	4以上×2以上	220～230・190	E－31°－S	不　明	SD364・1246を切っている	第14図 P39・40	第83次　都山Ⅹ P7
SB 1278	12.83以上×6.88	7以上×3	156～235・216～246	N－17°－E	南北棟	SD1277に切られている	第50図 P68	第85次　都山85次 P68
SB 1279	4.35以上×4.22	3以上×2（推定）	230、205・不明	N－32°－E	南北棟	なし	第21図 P45	第85次　都山85次 P54
SB 1280	4.54以上×1.82以上	2以上×1以上	282、172・182	E－31°－S	不　明	SB1277に切られている	第50図 P68	第85次　都山85次 P68
SB 1290	6.0×4.7	3×2	150～170、260～300・230～240	N－33°－E	南北棟	SB278を切っている	—	第86次　都山Ⅺ P11
SB 1296	3.6×3.4	1×1	360・340	N－35°－E	南北棟	なし	第14図 P39・40	第86次　都山Ⅺ P11
SB 1298	2.75以上×2.30以上	2以上×2以上	200・200	N－33°－E	不　明	なし	第43図 P62	第87次　都山Ⅺ P28
SB 1420	2.8以上×不明	1以上×不明	280・不明	N－33°－E	不　明	なし	第25図 P49	第91次　都山Ⅻ P9
SB 1500	8.2以上×3.6以上	4以上×2以上	205～211・170～183	N－33°－E	南北棟 総柱建物	SB1505に切られている	第46図 P65	第102次　都山ⅩⅤ P5～6
SB 1535	4.7以上×1.7以上	2以上×1以上	220～250・170	E－33°－S	不　明	SI1557を切っている	第46図 P65	第101次・HK
SB 1595	8.04×7.04	3×3	276・232～240	E－31°－S	総柱建物	SB1545・1605、SD1594・1574、SK1568・1576に切られている	第14図 P39・40	第107次　都山ⅩⅥ P6
SB 1605	17.6×6.7程	8×3	168～247・218～224	E－31°－S	東西棟	SB1596A・Bを切り、SB1545・1560・1595・1570、SD1574・1592・1594・1600、SK1568・1627に切られている	第14図 P39・40	第107次　都山ⅩⅥ P6
SB 1645	1.68	1	168	E－31°－S	門	なし	第14図 P39・40	第107次　都山ⅩⅥ P5
SB 1655	8.96×4.46	4×2	181～262・219～227	N－32°－E	南北棟	SA1665、SI1666を切り、SD1629・1647に切られている	第25図 P49	第110次　都山ⅩⅦ P6
SB 1675	11.6×4.0以上	5×2以上	215・200	N－34°－S	南北棟	なし	第14図 P39・40	第115次　都山ⅩⅦ P6

第６表　Ⅰ期官衙　遺構表（3）

	規模（m） 桁行×梁行	面　積 桁行×梁行	柱間（cm） 桁行・梁行	主軸方向	特　徴	重　複	本書掲載箇所	備　考
SB 1685	3.05以上×2.1以上	1以上×1以上	305・210	N−31°−E	南北棟	SB1690、SD758に切られている	第14図 P39・40	第115次　都山XIII P6
SB 1705	6.0×4.2	3×2	185〜230・不明	N−31°−E	南北棟	SB1710、SI1683、SD1765、SK1686・1687・1689に切られている	第25図 P49	第116次　都山XIII P20〜21
SB 1710	6.1×3.7	3×2	不明・不明	N−32°−E	南北棟	SB1705を切り、SB526、SK1684・1687に切られている	第25図 P49	第116次　都山XIII P21
SB 1715	7.7以上×4.2	5以上×2	190〜205・210	N−32°−E	東西棟	SB526に切られている	第25図 P49	第116次　都山XIII P21
SB 1720	5.6以上×3.0以上	3以上×2以上	210・170	N−34°−E	不　明	SB526に切られている	第25図 P49	第116次　都山XIII P21
SB 1745	14.2以上×5.5以上	5以上×2	240〜270・270〜280	N−34°−E （推定）	南北棟	SA1740、SD1750、SX1674に切られている	第14図 P39・40	第115次　都山XIII P6・13
SB 1750	13.5以上×5.24	5以上×2	270・256〜268	E−31°−S	南北棟	SB1745を切り、SA1740、SK1676、SX1674に切られている	第14図 P39・40	第115次　都山XIII P6〜9
SB 1755	7.3以上×5.7	3以上×2	215〜252・270〜300	E−32°−S	南北棟	SA1700・1740、SB1760・1690、SD758に切られている	第14図 P39・40	第115次　都山XIII P9
SB 1760	8.7以上×5.7	3以上×2	302・不明	E−33°−S	南北棟	SA1695、SB1755を切り、SA1740、SB1690、SD758に切られている	第14図 P39・40	第115次　都山XIII P9
SB 1800	不　明	2以上×不明	不　明	E−28°−S	不　明	なし	第14図 P39・40	第127次　都山XX P29
SB 1805	2.75以上×3.95	1以上×2	275・175〜220	N−43°−E	不　明	SD1782、SK1779を切っている	第20図 P44	第118次　都山XIX P17
SB 1815	7.2以上×3.6以上	3以上×1以上	215〜260・260	E−31°−S	総柱建物	なし	第14図 P39・40	第127次　都山XX P31
SB 1885	不　明	不　明	230程度	N−35°−E	不　明	なし	第20図 P44	第124次　都山124次 P42
SB 1901	5.9×4.1	4×2	120〜180・205	N−20°−E	東西棟	SA1908と交差、SI1897に切られている	第20図 P44	第124次　都山124次 P42
SB 1990	−	1	220（推定）	N−34°−E	門	なし	第51図 P69	第138次　都山22 P23
SB 2040	4.2以上×2.05以上	2以上×1以上	210・205	E−28°−S	不　明	SA616・2030に切られている	第31図 P53	第148次　都山23 P33〜35
SB 2050	4.8×3.8	2×2	240・190	N−28°−E	総柱建物	SD2086・2087・2088・2089に切られている	第50図 P68	第147次　都山24 P8

第７表　Ⅰ期官衙　遺構表（4）

（堀跡１）

	検出長 (m)	本柱列間数 (柱本間なども掲記)	柱間 (cm) 材痕跡 (cm)	方向	特徴	重複	本書掲載箇所	備考
SA 34	3.6以上	2以上	170～190	N－31°－E	一本柱列	なし	第21図 P45	第４次 郡山Ⅰ P20
SA 64	5.3以上	3以上	130～200	N－28°－E	一本柱列	なし	第35図 P56	第１次 郡山Ⅰ P11
SA 255	29.3以上	50～70	10～15	N－34°－E	材木列	SI260を切り、SA276、SD225・226に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P29
SA 272	5.4	55～105	10～20	E－28°－S	材木列	なし	第57図 P74	第28次 郡山Ⅲ P59
SA 276	39.0以上	50～60	10～15	E－31°－S	材木列	SI300・301、SK330、SA255を切っており、SE250・274、SK284、SD273に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P25
SA 277	23.0以上	50～70	15～30	E－30°－S	材木列	SI300・301、SI335、SA329・356を切り、SE266・271、SD273・275に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P22
SA 292	12	50～70	15～30	E－30°－S	材木列	SA342を切り、SD225、SK286に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P22
SA 329	20.5	9以上	150	E－30°－S	一本柱列	SI300・301、SA356を切り、SE266・271、SD273・275、SA277に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P22
SA 342	9.5	6	150	E－30°－S	一本柱列	SK286、SA255・292に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P22
SA 356	34.5以上	50～70	10～15	E－33°－S	材木列	SD291、SE266・271に切られている	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P22～P25
SA 380	10.3以上	5以上	180～220	E－32°－S	一本柱列	なし	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P15
SA 384	4.7	3	150～170	E－36°－S	一本柱列	なし	第35図 P56	第24次 郡山Ⅲ P29
SA 408	6.0以上	30～40	10～18	N－32°－E	材木列	SK409に切られている	第35図 P56	第35次 郡山Ⅳ P20
SA 423	南北11.4 東西7.5～7.7	5 4	190～270 175～246	N－32°－E	一本柱列	SD420と関連 SD273、SI473、SK389に切られている	第35図 P56	第35次 郡山Ⅳ P23
SA 433	4.0以上	40～50	10～25	N－32°－E	材木列	SB440に切られている	第35図 P56	第35次 郡山Ⅳ P20
SA 452	3.2以上	50	15～23	N－30°－E	材木列	SI441を切っている	第35図 P56	第35次 郡山Ⅳ P20
SA 475	3.9以上	3以上	130（推定）	E－30°－S	一本柱列	SI390・400・446に切られている	第35図 P56	第35次 郡山Ⅳ P29
SA 577	15.5以上	90～100	15～20	N－33°－E	材木列	なし	第46図 P65	第48次 郡山Ⅴ P70
SA 578	14.0以上	80～90	15～25	N－34°－E	材木列	なし	第46図 P65	第48次 郡山Ⅴ P70
SA 774	2.0以上	1以上	200	N－26°－E	一本柱列	なし	第14図 P39・40	第57次 郡山Ⅵ P69
SA 800	14.3以上	25～70	8～14	N－35°－E	材木列	SA815、SD817を切っており、SB793に切られている（SA255と関連）	第43図 P62	第61次 郡山Ⅶ P10
SA 813	2.2	46～56	8～14	E－28°－S	材木列	なし	第43図 P62	第61次 郡山Ⅶ P10
SA 814	2.3	56～72	20～40	E－33°－S	材木列	なし	第43図 P62	第61次 郡山Ⅶ P10
SA 815	15.9	50～80	10～26	E－31°－S	材木列	SI805、SD807を切っており、SA794・800、SK795・799・802・806・810・811、SX806に切られている	第43図 P62	第61次 郡山Ⅶ P10

第８表　Ⅰ期官衙　遺構表（５）

	検出長 (m)	一本柱列間数 / 材木列など集(cm)	柱間（cm） 材痕跡（cm）	方向	特徴	重複	本書掲載箇所	備考
SA 1204	18.6	60～106	4～6	E－32°－S	板塀	SB1205・1215を切っている	第14図 P39・40	第77次 都山IX P14
SA 1212	4.04	52	4～6	E－32°－S	板塀	SB1208・1215を切っている	第14図 P39・40	第77次 都山IX P14
SA 1220	3.6	50	4～6	E－30°－S	板塀	SB1218・1215を切っている	第14図 P39・40	第77次 都山IX P14
SA 1242	東西3.5 南北0.9	22～73	6～8	E－33°－S N－33°－E	板塀	SA1245、SD361を切っており、SI1231に切られている（SA1204・1212・1220跨ぐ盛土・東西10m）	第14図 P39・40	第86次 都山XI P8（第83次 都山X P6）
SA 1245	35.8以上	8以上	330～420	E－31°－S	一本柱列	SD364・1246、SK1247を切っており、SA1242、SI1234に切られている	第14図 P39・40	第86次 都山XI P8（第83次 都山X P6）
SA 1289	13.0以上	9以上	60～80	N－34°－E	一本柱列	SK1284・1286に切られている	第43図 P62	第88次 都山XI P38
SA 1295	6.5	4	150～180	N－32°－E	一本柱列	なし	—	第86次 都山XI P8
SA 1392	－	－	－	－	建物の一部	SI1391、SD1382に切られている	第43図 P62	第98次 都山XIV P10
SA 1410	3.1	40～45	8～18	N－35°－E	材木列	なし	第25図 P49	第91次 都山XII P9
SA 1615	13.2	3+3	186～206	E－31°－S	一本柱列	SA1620、SB1610・1560・1555、SD1603に切られている	第14図 P39・40	第107次 都山XVI P5
SA 1665	5.8	20～41	6～22	N－32°－E	材木列	SI1666を切り、SA1660、SD1629・1647、SD1652に切られている	第25図 P49	第110次 都山XVII P5
SA 1670	2.15	1	215	N－30°－E	一本柱列	SD16291に切られている	第25図 P49	第110次 都山XVII P5
SA 1695	35.3	8以上	215～252	N－32°－E	一本柱列	SA1700、SB1750・1760・1690、SD758に切られている	第14図 P39・40	第115次 都山XVIII P5
SA 1700	36.4	7以上	266～272	N－31°－E	一本柱列	SA1695、SB1745・1755を切り、SB1690、SD758、SK1676に切られている	第14図 P39・40	第115次 都山XVIII P5
SA 1725	1.65以上	1	165	N－35°－E	一本柱列	なし	第25図 P49	第116次 都山XVII P21
SA 1890	1.4以上	1以上	140以上	N－35°－W	一本柱列	なし	第20図 P44	第124次 都山124次 P42
SA 1898	3.4以上	2以上	170	N－46°－W	一本柱列	なし	第20図 P44	第124次 都山124次 P44
SA 1899	3.2以上	2以上	160	N－36°－W	一本柱列	なし	第20図 P44	第124次 都山124次 P44
SA 1900	3.5以上	2以上	160、190	N－45°－W	一本柱列	なし	第20図 P44	第124次 都山124次 P44
SA 2001	3.7	22～70	15～20	E－42°－S	材木列	SD2037を切る	第51図 P69	第138次 都山22 P24
SA 2030	10.8	55～90	20～25	E－30°－S	材木列	SB2040を切り、SA616、SD2076、SK2097に切られている	第31図 P53	第148次 都山23 P33
SA 2035	6	60～70	10～20	E－29°－S	材木列	SI2084を切り、SK2078、P1に切られている	第31図 P53	第148次 都山23 P33

第９表　Ⅰ期官衙　遺構表（6）

（溝跡）

	検出長(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)	方向	出土遺物	重複	本書掲載箇所	備考
SD 36	4.8	70～100	50～60	15	N－31°－E	なし	なし	第21図 P45	第4次 都山Ⅰ P21
SD 256	4.0以上	100以上	70以上	50～70	N－19°－E	なし	SB264、SK263を切っており、SD226に切られている	第43図 P62	第24次 都山Ⅲ P33
SD 767	9.8以上	364以上	64	126	E－30°－S	土師器坏・坏片・甕片、須恵器杯片・甕片・壺片、円面硯片、小玉石、弥生土器片	SD764、SK762に切られている	第25図 P49	第55次 都山Ⅵ P50
SD 812	8.5	32～56	20～35	12～27	E－31°－S	なし	SD817を切り、SA794・800、SK804に切られている	第43図 P62	第61次 都山Ⅶ P15
SD 882	21.0以上	100～170	80	35	N－33°－E	瓦片	SD883を切っており、SB880・885・890、SB895・1007、SK839・876・877・896に切られている	第58図 P75	第63次 都山Ⅶ P42・45
SD1429	10.0	290以上	250～280	50～70	N－36°－E	なし	SD1394、SA1430に切られている	第61図 P78	第99次 都山XIV P21
SD1492	8.0	185～200	110～150	90	N－30°－E	C-788R、E-32沢須恵、C-7585、C-7578、土師器坏・甕・鉢・甑・蓋台、黒色土器A・蓋・高台付坏の小片	SD1471を切り、SI1493、SD1478に切られている	第65図 P82	第103次 都山XV P16
SD1509	8.0	130～170	20～70	40～50	N－33°－E	土師器坏・甕片 円面硯の小片	SD1479・1481・1483・1484・1486・1487・1496、SK1498を切っている	第65図 P82	第103次 都山XV P15
SD1631	23.5	51～74	15～27	15～27	南半部N－30°－E 北半部N－25°－W	甕C-777、C-788	SD1650、SD1629・1647、SK1633・1637に切られている	第25図 P49	第110次 都山XVII P12～P13
SD1782	5.4	35～60	20～50	7～16	N－35°－E	なし	SB1805に切られている	第20図 P44	第118次 都山XIX P17
SD1951	7.2	50～60	35～40	20	N－34°－E	土師器の小破片	SK1948、SD1356に切られる	第50図 P68	第135次 都山21 P43
SD1952	6.5	40～50	20～30	18	N－35°－E	なし	SD1356・1949に切られる	第50図 P68	第135次 都山21 P43
SD2037	8.0	350以上	90以上	60	E－30°－S	なし	SA2001に切られている	第51図 P69	第138次 都山22 P27
SD2070	12.0	25～37	15～25	10～20	N－33°－E	なし	SD2121に切られている	第55図 P72	第152次 都山24 P42
SD2075	18.0	20～44	10～30	15	N－33°－E	焼面のある礫	SD2121、SX2123に切られている	第55図 P72	第152次 都山24 P42

第10表　Ⅰ期官衙　遺構表（7）

	規模（m）長辺×短辺	カマド	主柱穴	周溝	方向（炭化あるいはカマド）	出土遺物	重複	木書掲載箇所	備考
SI 3	6.5×6.4	不明	2	あり	N−31°−E	あり	SI2に切られている	第35図 P56	第1次 都山Ⅰ P10・13
SI 4	不明	不明	不明	あり	N−31°−E	あり	なし	第35図 P56	第1次 都山Ⅰ P10
SI 366	4.8×4.8	あり	4	あり	N−31°−E	○	SK374、SD364を切っており、SB344に切られている	第43図 P62	第24次 都山Ⅲ P37
SI 400	8.2×5.8以上	あり	不明	あり	N−30°−E	あり	SI446・447・475を切り、SI390、SK396に切られている	第35図 P56	第35次 都山Ⅳ P28
SI 411	4.5×4.5	不明	不明	なし	N−22°−E	なし	SI412・443を切っており、SK442、SE4291に切られている	第35図 P56	第35次 都山Ⅳ P19
SI 443	10.5×5.6	新・旧あり	なし	あり	N−33°−E	○	SI444、SD445を切っており、SI411、SK442、SE429、SA386に切られている	第35図 P56	第35次 都山Ⅳ P23
SI 446	7.6以上×4.0以上	不明	なし	あり	N−30°−E	あり	SA475を切っており、SI390・400に切られている	第35図 P56	第35次 都山Ⅳ P28
SI 447	3.6以上×3.2以上	あり	不明	なし	N−30°−E	なし	SI400に切られている	第35図 P56	第35次 都山Ⅳ P29
SI 580	3.0×2.5	なし	なし	なし	N−39°−E	なし	SK592を切り、SK589、P87に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P64
SI 581	3.2×3.2	新・旧あり	なし	なし	N−33°−E	○	SD572に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P64
SI 586	3.8×2.7	あり	なし	なし	N−40°−W	○	SI587に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P64
SI 587	3.4×2.2	あり	なし	なし	N−42°−E	あり	SI586を切り、SE573に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P64
SI 588	4.0×2.0	あり	なし	なし	N−42°−E	あり	SK583に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P69
SI 590	不明	不明	不明	不明	不明	○	SI591を切っている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P69・72
SI 591	3.4以上×2.4以上	不明	不明	なし	N−33°−E	なし	SI590・593に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P69
SI 595	不明	不明	不明	不明	不明	○	SI593、SD572に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P69・72
SI 598	4.4×3.0	あり	なし	なし	E−35°−S	○	SB597に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P69
SI 603	4.3×4.3	あり	4	あり	N−25°−E	あり	SD576、ピットに切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P70
SI 607	4.4×2.0以上	あり	不明	あり	N−33°−E	あり	SB604に切られている	第46図 P65	第48次 都山Ⅴ P70
SI 725	10.8〜14.1×3.7	あり	不明	なし	E−38°−S	あり	SI728を切っており、SI726・727、SD718、P81・82に切られている	第25図 P49	第55次 都山Ⅵ P46
SI 726	2.1以上×1.9以上	不明	なし	なし	N−30°−E	あり	SI725・728を切っており、SD718に切られている	第25図 P49	第55次 都山Ⅵ P46
SI 727	3.8以上×1.6以上	不明	不明	不明	N−30°−E	あり	SI725を切っており、SA730に切られている	第25図 P49	第55次 都山Ⅵ P46・49
SI 728	11.9×4.0以上	あり	不明	不明	E−38°−S	あり	SB777、SI725・726、SD765・772、SK721・728に切られている	第25図 P49	第55次 都山Ⅵ P49
SI 737	5.5以上×2.5以上	不明	不明	不明	N−47°−E	なし	SB716、SD710、SK711、P49・51・52に切られている	第25図 P49	第55次 都山Ⅵ P49

出土遺物の項で「○」は、実測図作成が可能な遺物が出土した場合、「あり」は、出土したが小破片で実測図の作成をしなかった場合である。

第11表　Ⅰ期官衙　遺構表（8）

	規模（m）長辺×短辺	カマド	主柱穴	周溝	方向（主軸あるいはカマド）	出土遺物	重複	本書掲載箇所	備考
SI 768	4.8～5.0×4.7～4.9	あり	4	なし	N－40°－E	あり	SK721・722・724・759・760・761、P74・80・159・163・164・176に切られている	第25図 P49	第55次 都山VI P49
SI 833	3.8以上×2.6	あり	なし	なし	N－26°－E	あり	SK823、P19・20・21などに切られている	第58図 P75	第62次 都山VII P26
SI 835	5.2×2.8	あり	なし	なし	N－32°－E	○	SA830・831A・B、SB834、SD828、SK824・826・829、他ピットに切られている	第58図 P75	第62次 都山VII P28
SI 899	6.0×5.0以上	あり	なし	なし	E－32°－S	なし	SB1001、SD864に切られている	第58図 P75	第63次 都山VII P45
SI 904	4.3×2.6以上	あり	なし	なし	N－36°－E	○	SI903に切られている	第141図 P165	第65次 都山65次 P109～112
SI 914	4.5×3.9以上	なし	1（推定）	なし	N－30°－E	○	なし	第150図 P174	第65次 都山65次 P115～116
SI 992	2.0以上×1.1以上	不明	不明	あり	N－43°－E	あり	SD984に切られている	第141図 P165	第65次 都山65次 P136～137
SI 994	4.2×不明	不明	不明	なし	N－26°－E	あり	なし	第141図 P165	第65次 都山65次 P139
SI 1027	3.6以上×不明	不明	2	あり	N－33°－E	あり	SD1023を切っており、SB1020、SK1024に切られている	第35図 P56	第68次 都山VIII P11
SI 1071	2.8以上×2.3以上	あり	不明	あり	E－31°－S	あり	SB1073A・Bを切っている	—	第72次 都山VIII P55
SI 1386	5.0以上×4.5以上	あり	なし	なし	E－33°－S	○	SI1389、SK1383、SD1384に切られている	第43図 P62	第98次 都山XIV P6
SI 1470	6.7×6.5	新・旧あり	2（推定）	なし	N－50°－E	○	SD1502・1503、SK1511に切られている	第65図 P82	第103次 都山XV P19
SI 1480	4.9×4.1	あり	不明	不明	N－35°－E	なし	SD1502、ピットに切られている	第65図 P82	第103次 都山XV P20
SI 1525	不明	あり	不明	不明	N－30°－E	なし	SD1394を切り、SD1537に切られている	第61図 P78	第104次 都山XV P36
SI 1664	7.8×4.3	不明	不明	あり	N－30°－E	あり	SA1660、SD1629・1652、SK1654に切られている	第25図 P49	第110次 都山XVII P11
SI 1666	7.1×5.4	不明	不明	不明	E－36°－S	○	SA1665、SB1655、SD1647・1652、SE1658に切られている	第25図 P49	第110次 都山XVII P12
SI 1681	3.7×2.7	あり	不明	不明	N－33°－E	なし	SB526に切られている	第25図 P49	第116次 都山XVII P21
SI 1682	2.7以上×2.2	不明	不明	不明	N－33°－E	なし	SB526、SK1679・1684に切られている	第25図 P49	第116次 都山XVII P21
SI 1683	3.4×2.5以上	不明	不明	不明	E－33°－S	なし	SD1765、SK1689に切られている	第25図 P49	第116次 都山XVII P21～22
SI 1693	4.2×4.2	あり（推定）	4	なし	N－37°－E	あり	SI1692、SB1723、SD1716に切られている	—	第112次 都山112次 P12
SI 1743	6.1×5.5	なし	4	あり	N－33°－E	あり	SI1729・1741、SK1708・1747、SD1721に切られている	—	第112次 都山112次 P26
SI 1861	3.5以上×3.5以上	不明	1	なし	N－30°－E	あり	SB1885に切られている	第20図 P44	第124次 都山124次 P9
SI 1862	6.8×4.2	あり	なし	あり	E－45°－S	○	SI1864、SK1863、SX1881を切っている	第20図 P44	第124次 都山124次 P10
SI 1865	不明	あり	不明	あり	N－46°－E	○	SD1860に切られている	第20図 P44	第124次 都山124次 P17

出土遺物の項で「○」は、実測図作成が可能な遺物が出土した場合、「あり」は、出土したが小破片で実測図の作成をしなかった場合である。

第12表　Ⅰ期官衙　遺構表（9）

（竪穴住居跡３）

	規模（m）長辺×短辺	カマド	主柱穴	周溝	方向（長辺あるいはカマド）	出土遺物	重複	本書掲載箇所	備考
SI 1866	4.2×3.7	あり（推定）	不明	あり	E−39°−S	○	SI1883、SK1884を切っている	第20図 P44	第124次 都山124次 P18
SI 1867	3.3×2.7	あり	1（推定）	あり	N−35°−E	あり	なし	第20図 P44	第124次 都山124次 P20～21
SI 1870	5.4×5.1	新・旧あり	4	あり	N−46°−E	○	SI1871・1872を切り、SI1869、SK1878に切られている	第20図 P44	第124次 都山124次 P21
SI 1871	4.7×4.2～4.5	あり	4	あり	N−41°−E	○	SI1870、SK1877・1882・1896に切られている	第20図 P44	第124次 都山124 P25
SI 1872	不明	なし	1（推定）	なし	N−45°−E	あり	SI1870、SK1878に切られている	第20図 P44	第124次 都山124 P28～29
SI 1876	5.8×4.7	あり	4	あり	E−33°−S	○	SB1901、SK1893、SX1894を切っている	第20図 P44	第124次 都山124次 P35
SI 1883	1.3以上×1.2以上	なし	1	あり	N−40°−E	あり	SI1866に切られている	第20図 P44	第124次 都山124次 P39
SI 1897	3.6以上×3.5以上	不明	1	あり	N−35°−E	○	なし	第20図 P44	第124次 都山124次 P40
SI 1923	3.4以上×3.2以上	不明	2	あり	E−27°−S	あり	SI1924を切り、建物跡3、SD1927・1928に切られている	第92図 P119	第131次 都山XX P38
SI 1924	1.0以上×0.6以上	不明	不明	不明	E−25°−S	なし	SI1923、建物跡1に切られている	第92図 P119	第131次 都山XX P40
SI 1926	0.6以上×不明	不明	不明	不明	E−38°−S	あり	建物跡1に切られている	第92図 P119	第131次 都山XX P40
SI 1943	4.4×4.3	不明	不明	不明	N−39°−E	○	SI1942を切り、SA1850、SD1946、SK1934に切られている	第184図 P205	第133次 都山21 P7
SI 1944	3.3以上×1.8以上	不明	不明	不明	E−43°−S	あり	なし	第184図 P205	第133次 都山21 P7

出土遺物の項で「○」は、実測図作成が可能な遺物が出土した場合、「あり」は、出土したが小破片で実測図の作成をしなかった場合である。

第13表　Ⅰ期官衙　遺構表（10）

（性格不明な遺構）

	規模（m）長軸×短軸	深さ（cm）	平面形	出土遺物	重複	本書掲載箇所	備考
SX 1281	2.25以上×1.24	36	楕円形	あり	なし	第50図 P68	第85次 都山85次 P69
SX 1282	2.15以上×1.35	−	不整方形	あり	SB1277に切られている	第50図 P68	第85次 都山第85次 P69
SX 2093	10.7×16.4以上	北半部30～45 南　部15～25	不整形	○	SA2005a・bを切り、SB2045、SD2000・2086・2087・2103・2106・2107・2108・2109・2114・2116・2117・2118、SX2122に切られている	第50図 P68	第147次 都山24 P16～23

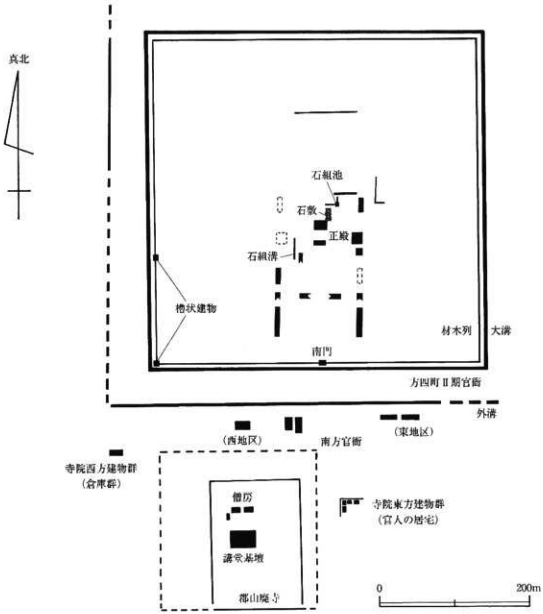
出土遺物の項で「○」は、実測図作成が可能な遺物が出土した場合、「あり」は、出土したが小破片で実測図の作成をしなかった場合である。

第14表　Ⅰ期官衙　遺構表（11）

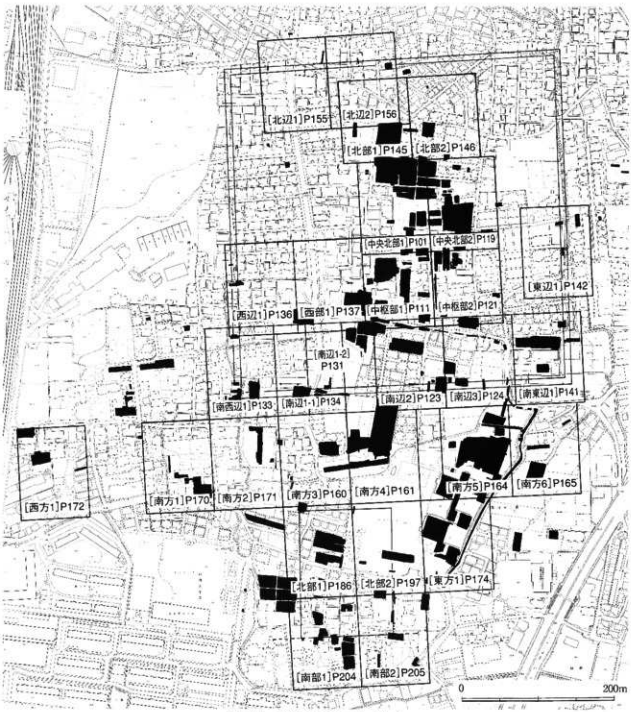
第２節　Ⅱ期官衙

Ⅱ期官衙はⅠ期官衙を取り壊し、真北方向を基準にして造られ、方四町Ⅱ期官衙、南方官衙、寺院東方建物群、寺院西方建物群などからなる。発掘調査が開始された当初はⅠ期官衙に後続する官衙が四町四方の範囲に収まるとの見方から、推定方四町官衙域あるいは方四町官衙域、方四町Ⅱ期官衙と呼称してきた。よってⅡ期官衙と呼称した場合にも、おのずと方四町Ⅱ期官衙の範囲に限って用いてきた場合がある。後に南方官衙や寺院東方建物群が発見され、時期差が認められないことや、方四町Ⅱ期官衙内の建物と同等かそれ以上の規模を有しているため、それぞれが同時期に存在した重要な官衙と言える。一定の広がりの中に区画や位置を違えて官衙が存在するのであり、それらを総称しⅡ期官衙として扱うことにする。

ここではⅡ期官衙を各々の官衙ごとに、代表的な遺構について記述する。文章化しなかった遺構についてはⅡ期官衙遺構表（第15表～第24表）を参照していただきたい。さらに詳しい内容について必要な場合は、遺構表中に示した備考の年度概報を引いていただきたい。



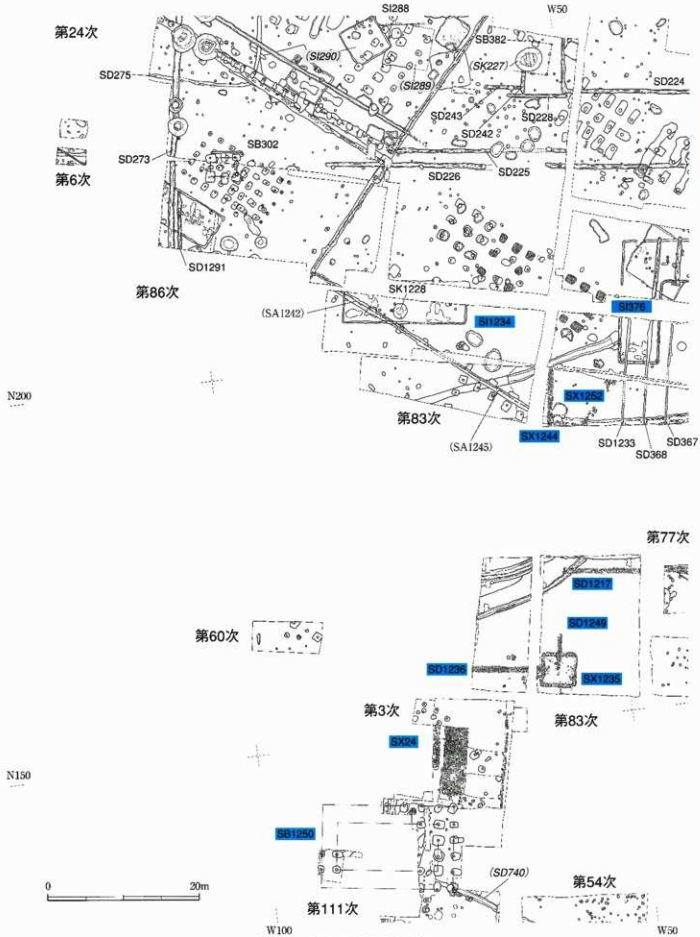
第73図　Ⅱ期官衙配置図



第74図　Ⅱ期官衙平面図（区割図）

1．方四町Ⅱ期官衙

方四町Ⅱ期官衙は四町四方を材木列と大溝により区画され、その中心域に石組池や石敷、石組溝、正殿とした四面廂付建物が配置されている。その南には削建期（Ⅱ—A期）に掘立柱建物がロの字型に配置され、石組池を含めたこれらの遺構群を西と東から複数の南北棟の建物が挟むように建てられている。これらの遺構の間には石組溝はあるものの、塀跡などの遮蔽施設は存在していない。のちにこれらの遺構とやや方向を異にする建物や塀が南半を中心に造られる（Ⅱ—B期）ようになる。以下に載せた遺構は地区ごとに主要な遺構と、重要な遺物を出土した遺構である。



第75図　方四町Ⅱ期官衙中央北部1

[方四町Ⅱ期官衙中枢部]

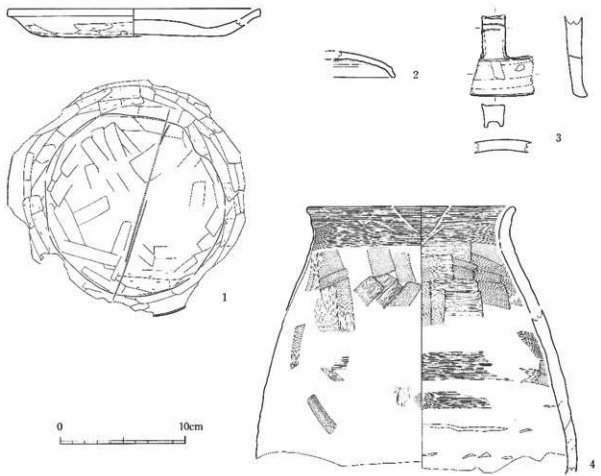
SX1235石組池跡（第83次・第75、77、78図）

東西4.6m、南北4.6mの正方形で、内法では東西3.7m、南北3.5mとなり、方向はN—1°—Eである。側石上面から底面までの深さは60cm程であるが、最上段の石の高さが一定していないことから、上面の石が外されていると考えられる。造営時の地表面の標高を反映している可能性があるSX24石敷遺構の上面からは、深さ70cmとなる。

側壁は河原石を小口積みに重ね、最下段のみ大きな石を横長に配している。底面は拳大のやや扁平な河原石を敷き詰めていたが、後世の撹乱により搬去され一部のみ残存している。底面や側壁の裏込めには粘土やシルト土が詰められている。

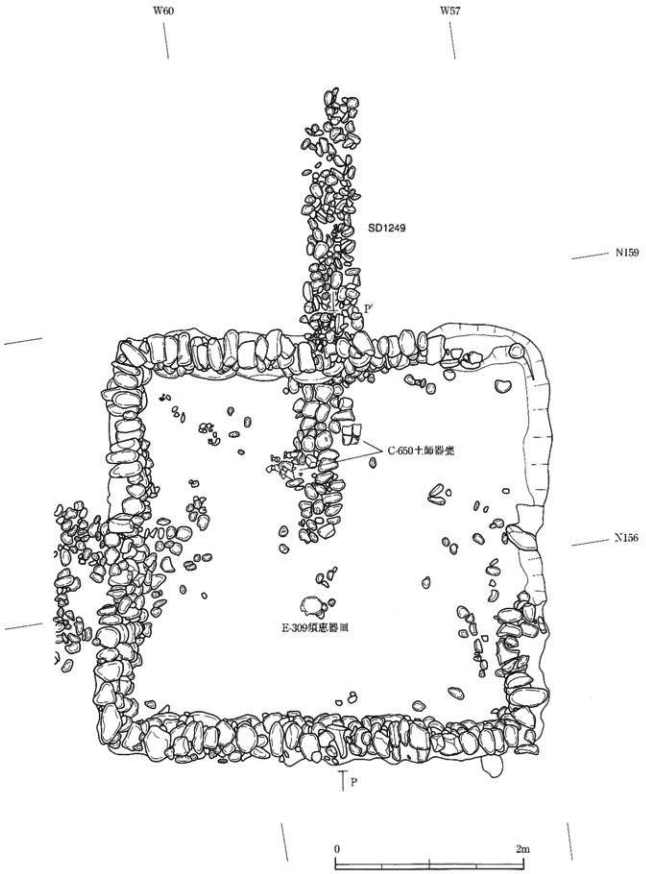
遺物は検出面上から有窓の円面硯E−310脚部片（第76図３）、堆積土中から大型の土師器C−650甕（第76図４）、カエリのない須恵器E−308蓋（第76図２）、底面からは底部がヘラケズリされた須恵器E−309Ⅲ（第76図１）が出土している。

北縁でSD1249、西縁でSD1236石組溝跡と接続している。

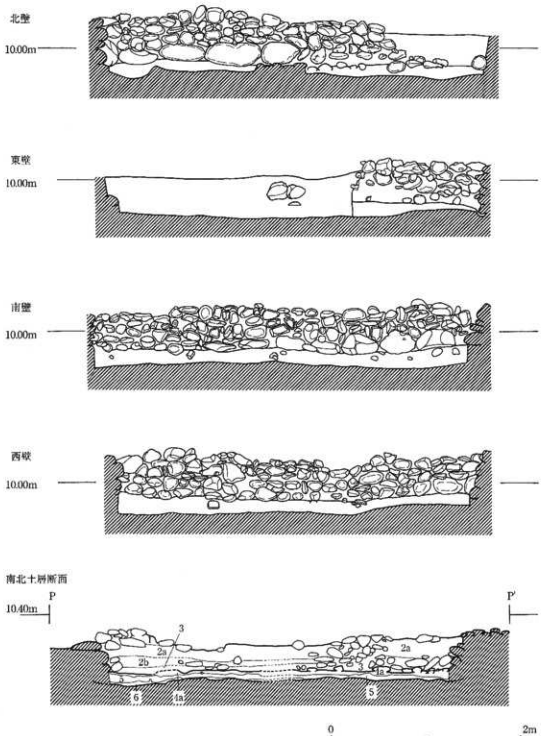


図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	法量（cm）	外面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
1	E-309	須恵器	硯	SX1235	底面	器高2.3、口径（20.4）	口縁部ヨコナデ、体部・底部ヘラケズリ→ヘラナデ	口縁部ロクロナデ、体部・底部ヘラナデ	Ⅰ	83	735
2	E-308	須恵器	蓋	SX1235		残存高2.0、口径（11.0）	口縁部ロクロナデ、天井部ヘラケズリ→ヘラナデ	ロクロナデ	Ⅱ1	83	
3	E-310	円面硯		SX1235		残存高6.4、底径（16.0）	ロクロナデ	ロクロナデ	海darkening 透かし痕跡あり	83	
4	C-650	土師器	甕	SX1235		残存高21.5、口径（16.8）	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ・輪積痕	B12	83	735

第76図　SX1235　出土遺物



第77図　SX1235石組池平面図



層位	土色	土質	備考
1	10YR4/4 褐色	シルト	浅黄色のシルトを小ブロック状に含み、酸化鉄を含む
2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐シルトを粒状に少量含み、酸化鉄を含む
2b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	多量に炭化物を含む
3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄を含む
4a	10YR4/4 褐色	シルト	明黄褐シルト、黒褐シルトを小ブロック状に含み、酸化鉄・マンガン粒を含む
5	10YR5/3 にぶい黄橙色	粘土	褐色シルトをブロック状に含み、酸化鉄・マンガン粒を含む
6	10YR6/6 明黄褐色	粘土質シルト	全体に多量に酸化鉄とマンガン粒を含む

第78図　SX1235石組池　立・断面図

SD1217石組溝跡（第77、83次・第75、79図）

両側に拳大の円礫を並べた石組溝跡である。総長26.5m以上で、幅52～70cm、内法寸法20～33cm、側石上面から底面までの深さは13～20cmである。底面の一部にも扁平な円礫が敷かれているが、底面は残りが悪く礫が失われている箇所がある。方向はE—0°—Sである。

SD1240溝跡を切っている。

SD1236石組溝跡（第83次・第75、79図）

両側に拳大の円礫を並べた石組溝跡で、総長９m以上で更に西に延びている。幅56～92cm、内法寸法50cm、側石上面から底面までの深さは５cmであり、底面には扁平な拳大以下の円礫が敷き詰められている。方向はE—1°—Sであり、検出された９mの範囲では東から西へ10cm低くなり、緩やかな傾斜が認められる。

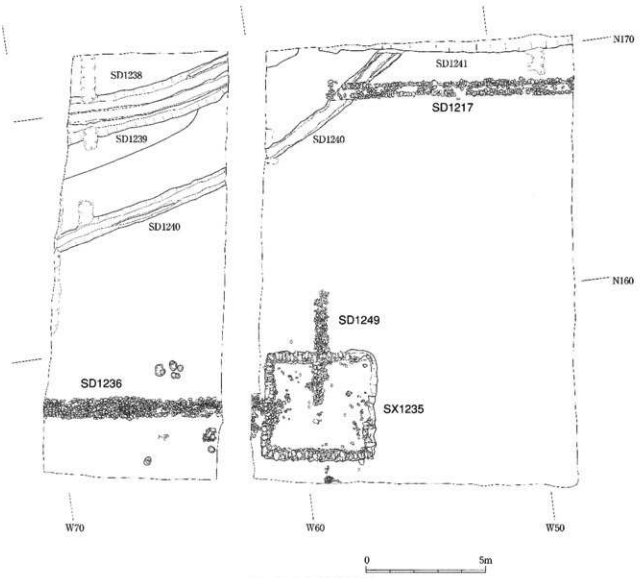
SX1235石組池跡の西縁と接している。

SD1249石組溝跡（第83次・第75、79図）

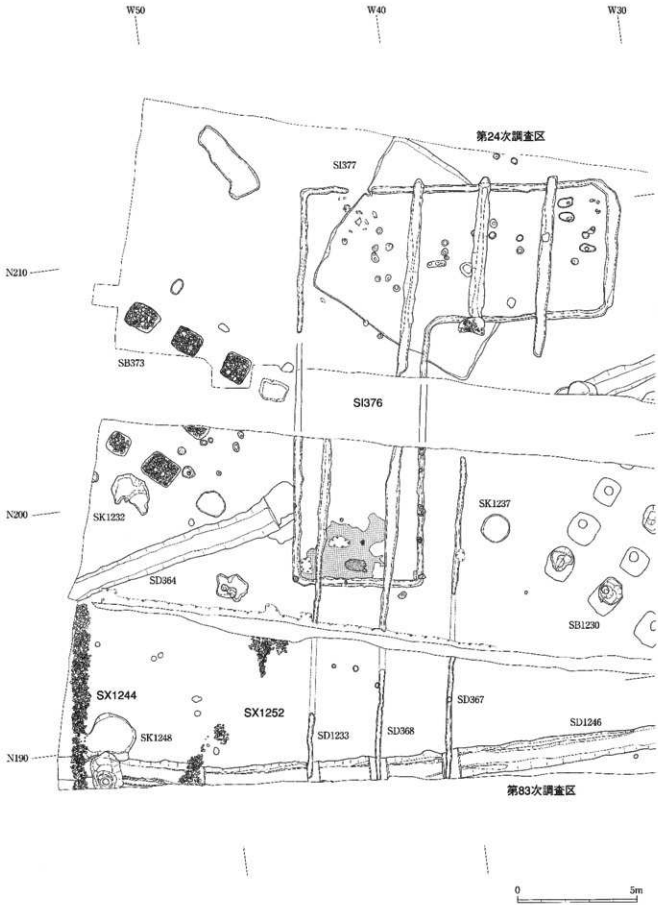
撹乱を受けているが、径５～20cmの円礫を並べた石組溝跡で、総長3.5m以上、残存する幅は58～60cmである。

方向はN—1°—Eで、本来は更に北まで延びSD1217石組溝跡に直角に交わっていたものと考えられる。

SX1235石組池跡の北縁と接している。



第79図　石組溝跡位置図



第80図　石敷遺構、竪穴建物跡位置図

SX1244石敷遺構（第24、83次・第75、80図）

総長7.6m以上で南北に延びる道状の石敷遺構で、残存する幅は50～75cm、方向はN—2°—Eである。

遺物は検出面から口縁部が「く」の字に立ち上がり、内外面漆仕上げの可能性がある土師器C-647坏、長方形の格子叩きが施された平瓦G－18（第81図）などが出土している。

SA1242板塀跡、SA1245一本柱跡、SD1246溝跡を切っている。

図版番号	登録番号	種別	器形	出土地点 出土遺構	層位	凸面調整	内面調整	備考	調査次数	写真図版
	G-18	瓦	平瓦	SX1244		格子叩き目	布目痕、粘着痕、削ナデ、糸切り痕跡、絞巻き		24-83	676

第81図　SX1244　出土遺物

SX1252石敷遺構（第83次・第75、80図）

撹乱を受けているが、幅57～160cmの範囲で直径５～20cmの河原石を用い、３箇所に石が敷かれているのを検出した。形状からは連続していた可能性がある。

SD1246溝跡を切っている。

SI376竪穴建物跡（第24、83次・第75、80図）

北辺長13.2m、南辺長5.5m、東辺長5.6m、西辺長16.4mの曲がり屋風の竪穴建物跡で、西辺方向はN—1°—Eである。上部は削平が著しく、貼床が一部で残存しているのみである。壁際に幅30cm程の周溝が巡り、深さは９～24cmで、底面にピットが８箇所で検出された。

遺物は検出面上から外面天井部に回転ヘラケズリが施され、内面に赤色の朱墨らしい痕跡のあるカエリのない須恵器E-159蓋（第82図２）、内面に赤色の朱墨らしい痕跡のあるカエリのある須恵器E-161蓋（第82図１）、２対の透かし窓が付いていると推定される円面硯E-160（第82図４）、粘土板巻きの丸瓦F-24・25（第82図７、６）、１層中から補巻き作りで縄叩きのG-12平瓦（第82図８）、ロクロ挽き重弧文軒平瓦G-14（第82図５）、周溝内から体部外面に段の見られない内面黒色処理された土師器C-259坏（第82図３）が出土している。

SI377竪穴住居跡、SD364溝跡を切り、SD363・367・368・1233溝跡、SK372土坑に切られている。

SI1234竪穴建物跡（第24、83次・第75図）

東西16.4m、南北5.8mの長方形で、方向はE—0°—Sである。削平が著しく床面まで及んでおり、貼床の一部が残存する程度である。遺物は掘り方中より土師器坏、甕片が出土している。

SA1242・1245を切り、SK1228に切られている。